

# 完了報告書

記入年月日 2026年2月15日

採択団体名 株式会社 Earth High School

## ■事業概要

基本情報	
事業名	アントレプレナーシップ教育×防災教育 ～次世代防災リーダー“エヴァンジェリスト”育成プログラム～ 【目指せ 47 都道府県制覇！】
事業内容	<p><b>事業内容① はじめ:学び(インプット)</b> 本事業は、大学生を中心とした若者が地域防災の担い手となるモデルの構築を目的として実施した。石川県穴水町および福島県浪江町において被災地研修を実施し、被災地の現状理解、防災基礎研修、避難生活疑似体験等を通じて、地域防災の課題と実践の必要性を学ぶ機会を提供した。その過程で、防災においては制度や物資のみならず、「人を大切にする関係性」やコミュニティのつながりが重要であることを学び、被災地と若者の間に信頼関係を築く視点を養った。</p> <p><b>事業内容② なか:実践(協働)</b> 学びを踏まえ、福岡大学・駒澤大学・順天堂大学・琉球大学等と連携し、避難所運営ワークショップおよび地域協働型の実践活動を複数地域で展開した。所定の研修および実践プログラムを修了した学生約50名を防災エヴァンジェリストとして位置付け、学生主体による防災活動を推進した。福岡大学においては、防災エヴァンジェリストを中心に新たな防災サークルが学内で立ち上がり、継続的な防災活動を行う体制が構築された。 また、防災絵本の読み聞かせを障がい児施設、小学校、保護者コミュニティ等で実施し、防災を世代や立場を越えて共有する機会を創出した。地域との接点を拡大することで、防災を日常に根差した取り組みとして広げた。</p> <p><b>事業内容③ おわり:発信(アウトプット)</b> 講演活動や情報発信を通じて、防災の重要性を広く共有した。さらに、防災エヴァンジェリストがラジオ番組やSNSに出演し、自らの経験や学びを社会へ発信する機会を設けた。学生自身の言葉で防災教育の意義や実践経験を語ることで、学びと実践を社会へ還元する循環を形成した。 あわせて、防災絵本の制作過程においては、ワークショップ参加者、ヒアリング協力者、オンライン意見提供者等を含め、延べ約200名の地域関係者が参画した。多様な視点を取り入れることで、地域性と実効性を兼ね備えた教材を制作した。</p>
事業背景	<p>近年、自然災害の頻発により地域防災力の強化が求められている一方で、防災教育が知識習得にとどまり、実際の行動や地域防災活動に十分結びついていないという課題がある。避難所設営等の知識を有していても、現場で判断し主体的に動く力との乖離が指摘されている。 特に、サステナブルネイティブであるZ世代は、社会課題への関心は高いものの、地域防災の担い手として継続的に関与する機会や仕組みが十分に整っていない現状がある。 こうした背景を踏まえ、本事業では、大学生を中心とした若者が「受講者」にとどまらず、「実践者」「発信者」として地域に参画する循環型モデルの構築を目指した。大学、地域、企業、行政が役割を補完し合いながら、継続性と再現性を備えた防災教育の基盤形成を図るものである。</p>

<p>コミュニティ 設立の経緯</p>	<p>本事業の実施にあたり、学生が主体となって防災を学び、実践し、その成果を地域へ還元できる体制を構築するため、大学を起点とした防災教育コミュニティを形成した。</p> <p>これまでに構築してきた大学および自治体との連携実績を基盤に、弊社社員が関わる大学を中心として、各大学単位で防災チームを組成した。あわせて、全国の大学、防災サークル、危機管理分野を学ぶ学生等が分野横断的に参画できる連携拠点としてのハブ機能を整備し、学生主体で避難所運営ワークショップや教材作成を行ってきた。</p> <p>大学内での活動を起点に、学生は防災エヴァンジェリストとして地域へ活動を展開し、地域住民と協働した防災啓発イベント等を実施している。これらの取組に対しては、各大学所在地の自治体防災部局等が後方支援を行い、官学連携による実践体制を構築している。</p> <p>本コミュニティ設立の背景には、被災地での現地調査や研修を通じて得た課題認識がある。石川県や福島県における被災地訪問を通じ、被害が長期化する地域の実情や避難生活の困難さに触れ、防災が生活基盤を支える重要な要素であることを再認識した。こうした経験を共有する中で、学生自身が防災に主体的に関わる必要性を確認し、コミュニティ形成に至った。</p>
<p>本事業に関する過去の取り組み内容 (12月現在)</p>	<p>本事業に先立ち、インプット段階として能登半島・穴水町において防災研修を実施してきた。キャンピングカーでの宿泊による避難生活疑似体験や被災地訪問を通じ、長期化する避難所生活の実情や地域課題について現地の声に直接触れる機会を設けた。その過程で、防災においては制度や物資のみならず、「人を大切にしている関係性」や信頼構築が重要であることを学んだ。</p> <p>これらの学びを基盤に、駒澤大学、順天堂大学、琉球大学、福岡大学において防災エヴァンジェリストの育成に取り組んできた。各大学と継続的な関係性を構築し、学生が主体的に企画・実践を担う機会を創出している。福岡大学では城南区役所等と連携した避難所運営ワークショップを実施し、地域防災を自ら考え行動する実践の場を形成してきた。さらに、全国の小中高大学生団体等とも連携し、「生きる力」をテーマとした講演や活動参画を通じて、防災教育の意義を学生・教職員・地域関係者へ広げてきた。</p> <p>これらのインプットおよび実践の成果を社会へ還元するアウトプットとして、今後はウルトラ FM 等と連携し、防災をテーマとしたラジオ番組での情報発信を本格的に実施する。あわせて、学生が単なる実践者にとどまらず、学びと実践を自ら言語化し社会へ伝える「防災エヴァンジェリスト」として自立的に活動できるよう、実践およびアウトプット段階の高度化に注力していく。</p>
<p>事業体制</p>	<p>本事業は、被災地・大学・企業・行政がそれぞれの役割を担い、学生主体で企画・実践・発信を行う協働体制のもと運営した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・能登半島・穴水町／福島県浪江町(被災地・研修受入地域・企業)[事業内容①]</li> </ul> <p>被災地研修の受入先として、防災研修および現地視察の機会を提供し、事業全体の基盤となる学びを担った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各大学(学生実践拠点)[事業内容②]</li> </ul> <p>福岡大学、駒澤大学、順天堂大学、琉球大学において、学生が主体となり避難所運営ワークショップや地域協働型企画を実施した。計45名の学生が企画・運営に参画し、各拠点での実践体制を構築した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・城南区役所(行政)[事業内容②]</li> </ul> <p>地域連携および会場調整等の後方支援を担い、学生主体の実践を制度的・地域的に支援した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウルトラ FM(企業)[事業内容③]</li> </ul> <p>防災をテーマとしたラジオ番組において情報発信機会を提供し、学生による社会発信を支援した。</p>

<p>全体スケジュール</p>	<p>〈9月～10月中旬〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・10月14日 各大学における防災エヴァンジェリストおよび協力団体を確定</li> <li>・10月19日 各大学参加のオンラインキックオフミーティングを実施</li> <li>・10月28日～30日 防災研修を実施。各大学で開催された防災イベントへの参加や出店を通じて、学生の実践的な学びと他団体との交流を実施</li> <li>・10月下旬 防災をテーマとした絵本制作の企画・設計を開始</li> </ul> <p>〈11月下旬～12月下旬〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月1日 保護者向け絵本アンケートを開始</li> <li>・11月7日～9日 石川県における防災学習(被災地視察・研修)を実施</li> </ul> <p>〈12月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・12月4日 兵庫県内中学校にて防災講演会を実施</li> <li>・12月10日 全体進捗共有会議を実施(各大学・関係者間での情報共有・調整)</li> <li>・12月12日～13日 福岡大学にて避難所運営ワークショップおよび地域協働避難訓練を実施</li> <li>・12月18日～19日 山口内大学にて防災講演を実施</li> <li>・12月20日 駒澤大学にて避難所運営ワークショップおよび地域協働避難訓練を実施</li> </ul> <p>〈1月〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1月(全期間) 学生による SNS および地域メディア(コミュニティ FM・民放等)での情報発信を実施</li> <li>1月16日～17日 那覇市内公民館にて防災ワークショップを実施</li> <li>1月20日 群馬県内児童発達支援施設にて防災絵本の読み聞かせを実施</li> <li>1月24日～25日 福島県浪江町にて防災学習を実施</li> <li>1月28日～29日 石川県穴水町の学校施設等にて防災絵本の読み聞かせを実施</li> <li>1月30日 東京都内親子コミュニティおよび学生団を対象に、防災絵本の読み聞かせを実施</li> <li>1月31日 埼玉県内小学校にて防災絵本の読み聞かせを実施</li> <li>1月31日 防災エヴァンジェリスト認定式</li> </ul>
<p>事業目標・事業成果</p>	
<p>事業目標全般 (教育提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・弊社が中心となり、大学生を中心とした防災エヴァンジェリストを全国規模で 50 名育成し、各地域において防災教育を担う人材基盤を形成する。</li> <li>・駒澤大学、順天堂大学、福岡大学、琉球大学等の複数大学に加え、自治体・企業との連携体制を構築し、大学を起点とした持続可能かつ横断的な防災教育モデルを確立する。</li> <li>・避難所運営ワークショップや防災教材を体系化し、他大学・他地域へ展開可能な再現性のある防災教育プログラムとして整備する。</li> <li>・学生が講演やラジオ出演等を通じて防災を発信する機会を創出し、防災教育の担い手が継続的に育ち、社会へと循環していく仕組みを構築する。</li> <li>・防災教育を単発的な啓発活動にとどめず、採択団体がハブとなり、学生・地域・関係機関が継続的に関与する「防災エコシステム」として地域に定着させる。</li> </ul>
<p>事業成果全般 (教育提供者)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業において、大学生を中心とした防災エヴァンジェリスト約 50 名を育成した。全員が大学 3 年生未満であり、今後も各地域において継続的に防災活動を展開できる次世代人材基盤を形成した。</li> <li>・活動は全国 9 都道府県(石川県、兵庫県、福岡県、山口県、東京都、群馬県、福島県、埼玉県、沖縄県)に展開し、地域特性に応じた防災教育実践を実施した。これにより、全国展開モデルの基盤を構築した。</li> <li>・福岡大学においては、学生が主体となって防災企画書を作成し、防災研修および事前準備会議を経て城南区役所へ提案を実施。その結果、学校および城南区が毎年実施する防災イベントにおいて学生が統括役を担う体制が実現し、人材募集・広報を含む運営全体へ参画した。さらに事後の振り返りを通じて継続方針を整理し、防災サークルの立ち上げへと発展した。</li> <li>・駒澤大学、順天堂大学、琉球大学等においては、月 1 回の定例ミーティングを通じて採択団体社員がファシリテーターを務め、避難所運営ワークショップや地域協働避難訓練の企画立案、防災絵本制作に向けた情報収集・整理を実施。学内外との連携を推進し、大学を起点とした防災教育ネットワークを形成した。採択団体は各主体をつなぐハブとして機能し、役割分担に基づく協働体制を具体化した。</li> <li>・避難所運営ワークショップ、防災研修、防災教材(防災絵本を含む)については、元自衛官や NPO 有識者の知見を取り入れ、地域教育関係者と連携しながら体系化。他大学・他地域へ展開可能な再現性のある防災教育プログラムとして整備した。</li> <li>・学生が講演登壇、ラジオ出演、地域イベント等を通じて防災を発信する機会を創出し、若者が防災教育の「受け手」から「伝え手」へと転換する実践モデルを確立した。ウルトラ FM 等との連携により、学生の発信を社会へ接続する仕組みを構築し、持続的な発信基盤を形成した。</li> </ul>

<p>事業目標全般 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国の学生約 100 名が防災ワークショップや研修に参加し、避難所運営や地域防災について実践的に学ぶ機会を創出する。</li> <li>・参加学生の 8 割以上が、防災を自分ごととして捉え、今後の行動につなげる意識を持つ状態を目指す。</li> <li>・地域住民や学校関係者約 50 名が学生主体の防災教育に参加し、若者と協働して防災に取り組む機会を創出する。</li> <li>・学生が防災エバンジェリストとして地域で活動することで、地域住民との関係性やコミュニケーションが生まれる状態を目指す。</li> <li>・大学・地域を起点とした防災イベントやワークショップを通じ、防災を「特別な訓練」ではなく「日常の延長」として捉える意識の広がりを促進する。</li> </ul>
<p>事業成果全般 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災ワークショップおよび研修に延べ約 100 名の学生が参加し、避難所運営や地域防災について実践的に学ぶ機会を創出した。</li> <li>・参加学生の中から約 50 名が防災エバンジェリストとして活動に参画し、ワークショップ運営や地域連携企画に主体的に関与した。</li> <li>・学生が講演やワークショップ運営を担う中で、地域住民との対話や協働の機会が生まれ、「若者が防災を担う姿に刺激を受けた」「防災をより身近に感じた」といった声が寄せられた。</li> <li>・大学・地域・近隣教育施設を起点とした交流やイベントの実施を通じ、防災を恒例行事や特別な訓練にとどめず、日常生活の延長として捉える視点を共有する機会を形成した。</li> </ul>
<p>展開できる 知見やノウハウ</p>	<p>本事業を通じて得られた重要な知見は、防災教育において学生を単なる「参加者」として位置付けるのではなく、「担い手」として育成する設計を行うことで、大学・地域・行政をつなぐ持続的な仕組みへと発展し得る点である。単発の講座や訓練にとどまらず、「学び(インプット)」「実践(協働)」「発信(アウトプット)」を循環させる構造を組み込むことで、学生自身の成長と地域への波及を両立できることを確認した。</p> <p><b>1. 初期段階における体験型インプットの設計</b> 被災地訪問や避難生活疑似体験を事業初期に組み込むことで、学生が防災を自らの生活や将来に関わる課題として捉える契機となった。体験を起点に主体性が高まる設計は、他地域・他大学においても再現可能な要素である。</p> <p><b>2. 大学間交流の仕組みづくり</b> 各大学で防災エバンジェリストを育成するだけでなく、オンラインミーティングやイベントでの意見交換の機会を設け、大学間での交流を促進した。Zoom 等を活用した定期的な共有や相互相談を通じて、活動事例や課題を共有できる環境を整備した。 これにより、活動が各大学内に閉じることを防ぎ、学生同士が学び合い、支え合える関係性を形成した。このような大学間交流の設計は、他地域においても導入可能な実践手法である。</p> <p><b>4. アウトプット機会の計画的設計</b> 講演やラジオ出演等の発信機会を意図的に組み込むことで、学生が「学び手」から「伝え手」へと段階的に成長するプロセスを設計した。発信機会の設定は、理解の深化と社会への波及の両面に寄与する実践手法であり、他団体においても導入可能である。</p> <p>以上の知見は、大学・地域・行政・企業の規模や地域特性に応じて柔軟に応用できる設計思想および実践プロセスとして整理できる。本事業は、学生主体型防災教育の展開に資する具体的なモデルを提示した。</p>

<p>コミュニティ防災教育の重要な観点</p>	<p>コミュニティ防災教育を地域で進める上で最も重要なのは、学生が主体となって地域と関わり、行動している姿を可視化することである。地域住民にとって「誰が、どのような思いで防災に取り組んでいるか」が見えることが、協力や共感を得る大きな要因となる。学生自身が悩みながらも前向きに行動する姿勢が伝わることで、地域住民や関係機関が自然と応援し、関与してくれる関係性が生まれる。</p> <p>また、防災教育の最初の実践の場として大学を起点とすることも重要である。大学は学生の主体的な企画や挑戦を尊重する土壌があり、比較的实践のハードルが低い。加えて、形式張ったイベントではなく、友人を誘って参加できる「楽しく関われる場」として設計することで、参加の心理的ハードルを下げることができる。こうした大学内での小さな成功体験を重ねることで、学生は「自分たちでもできる」という実感を持ち、地域展開につなげることができる。</p> <p>一方で、学生が自由に企画・実践を行うには、防災分野の有識者や経験者による監修が不可欠である。第三者の視点を取り入れることで、活動の軸がぶれることを防ぎ、学生の主体性と防災教育としての質を両立させることができる。</p> <p>さらに、大学間・大学と地域の既存ネットワークを活用することも、コミュニティ形成において重要である。例えば、駒澤大学と昭和女子大学のように、学生間・大学間の人的ネットワークを通じて協力関係を広げることで、学生ならではの柔軟な連携(イベントポスターの校内掲示など)が可能になる。学生の立場だからこそ活かせる機会や強みを意識的に活用することが、コミュニティ防災教育を持続的に広げていく上で有効である。</p>
<p>残課題等</p>	<p><b>1. 学生主体型運営の安定性</b>  学生主体で企画・運営を行うことで高い当事者意識と柔軟な発想が生まれた一方、学業や生活状況の影響を受けやすく、活動の進行や連携にばらつきが生じる場面があった。特に全国に分散した学生が有志で参加する体制では、試験期間や就職活動期に活動量が同時に低下する傾向が見られた。今後は、学生の主体性を尊重しつつも、最低限の進行管理ルールや役割分担の明確化、年間計画の前倒し設計等を行うことで、安定的な運営体制を整備する必要がある。</p> <p><b>2. 全国展開に伴う伴走支援体制および設計精度の向上</b>  全国規模で展開する中で、参加学生の経験値や防災に対する理解度に差が生じ、採択団体による伴走支援に負荷が集中する構造が見られた。特に、本事業はアントレプレナーシップ教育(チャレンジ精神)と防災教育を掛け合わせた挑戦型プログラムであったため、「どこまでを学生の挑戦領域とするか」「どこからを専門的判断に委ねるべきか」という基準の整理に時間を要する場面があった。また、採択団体自身も防災分野について学びながら企画を推進する状況であり、専門的知見と挑戦機会のバランス設計に課題が残った。今後は、防災分野の有識者や実務経験者をメンターとして組み込み、専門性を補完する体制を構築するとともに、学生の挑戦を段階的に広げる育成フレームを明確化することで、より安定的かつ再現性のある支援体制を整備する必要がある。</p> <p><b>3. 「地域コミュニティ」の解像度向上</b>  本事業では、学生と地域住民との関係性は一定程度構築できた一方で、地域住民同士のつながりを強化する仕組みまでは十分に設計できなかった。結果として、「学生と地域」という二項構造にとどまり、地域内部のネットワーク形成への波及が限定的であった。今後は、防災イベントやワークショップを地域住民同士の交流機会としても位置付け、コミュニティ内の横のつながりを促進する設計を強化する必要がある。</p> <p><b>4. 挑戦機会と評価の仕組みの不足</b>  防災に高い関心や主体性を持つ学生は一定数存在したが、実践機会の不足、集客・発信ノウハウの未成熟、活動成果を評価・可視化する仕組みの不十分さにより、挑戦を継続する環境が十分とは言えなかった。今後は、段階的に経験を積めるプログラム設計と成果の可視化・評価の仕組みを導入することで、学生が成長実感を持ちながら継続的に活動できる環境を整備する必要がある。</p> <p><b>5. 外部連携における時間軸の課題</b>  学校や企業との連携においては、企画書提出や調整に長期的な準備期間が必要であり、学生主体の機動的な企画運営との間に時間軸のギャップが生じた。特に企業との連携では、事前調整期間の不足により、防災の担い手としての当事者意識を十分に共有するまでには至らなかった。今後は、年間スケジュールを前提とした計画的な連携設計を行い、企業や教育機関を単なる参加者ではなく、地域防災の共同担い手として巻き込む枠組みを構築する必要がある。</p>

■事業内容

事業内容① 事業内容①:はじめ:学び(インプット)	
<p>事業内容①目標 (提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地(石川県能登半島・穴水町、福島県浪江町等)での体験型防災研修を通じ、被災者の生活実態や長期避難の課題を一次情報として把握し、机上の知識にとどまらない実践的防災教育の設計基盤を構築する。</li> <li>・制度や設備の理解にとどまらず、「人を大切にしている関係性」や信頼構築を軸とした学習設計を行い、被災者・地域・若者をつなぐ防災教育モデルを確立する。</li> <li>・体験型インプットを起点とした教育プロセスを整理し、他大学・他地域でも再現可能な防災研修モデルとして体系化する。</li> <li>・被災地で得た一次的学びを防災絵本の企画・設計へと昇華させ、体験を個人の経験で終わらせず、次世代へ循環させる仕組みを構築する。</li> <li>・将来的に育成する防災エヴァンジェリストのリーダー層として、社員自らが地域コミュニティや防災の在り方を深く理解し、その設計思想を言語化できる状態を目指す。</li> </ul>
<p>事業内容①目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修および避難生活疑似体験を通じ、被災地の実情や長期避難生活の課題を、知識ではなく実感を伴って理解する。</li> <li>・防災分野に十分な知見を持たない立場から基礎的な学びを積み重ね、今後育成する防災エヴァンジェリストのリーダーとして必要な視点と判断力を養う。</li> <li>・被災者や地域関係者との対話を通じて、「人を大切にしている関係性」や信頼構築の重要性を体得し、地域と向き合う姿勢を醸成する。</li> <li>・災害時のみならず、平時からの地域コミュニティの在り方や形成プロセスを学び、世代的に馴染みの薄い地域との関わりを自らの課題として捉える。</li> <li>・防災を専門知識ではなく「生きていく上で必要な力」として再定義し、学びを今後の企画設計や地域実践へ主体的に活かす姿勢を身につける。</li> </ul>
<p>事業内容① 実施内容 A (実施日:11/7-9 1/24-25 )</p>	<p>■具体的な取り組み内容 事業内容 石川県能登半島・穴水町および福島県浪江町において、防災学習を実施した。被災地訪問、防災研修、キャンピングカーでの宿泊を通じた避難生活疑似体験を行い、長期化する避難生活の実情や地域課題を一次情報として学ぶ機会とした。座学では、元自衛官および有識者から災害対応や避難所運営の基礎を学んだ上で、現地では被災者や地域関係者との対話の機会を設けた。二次情報に依存せず、現場で得られる一次的学びを重視する設計とした。</p> <p>■成果(提供者・参加者共通) 参加した社員および学生は、被災者の声に直接触れることで、防災を自分事として捉える意識へと変化した。防災は制度や設備の問題だけでなく、人と人との関係性や信頼構築の問題であるという理解が深まり、その後の防災教育活動や発信への意欲向上につながった。また、学びを社会へ還元することを前提にラジオでの情報発信を行い、学生が自らの言葉で防災の意義を伝える経験を得た。これにより、「学び手」から「伝え手」へと役割を広げる契機となった。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>

事業内容①  
 実施内容 B  
 (実施日:10月下旬～)

■具体的な取り組み内容  
 事業内容

10月下旬より、防災をテーマとした絵本制作の企画・設計を開始した。被災地研修で得た一次情報に基づく学びを基盤とし、「自分の身は自分で守り、誰も置いてけぼりにしない」という理念のもと内容構成を検討した。

インターナショナルスクール在籍児童、配慮を必要とする子ども、障害のある子どもおよび保護者を対象に、延べ約200件のアンケートおよび意見交換を実施し、多様な当事者の視点を設計段階から反映させた。さらに、ラジオ番組を通じて質問や意見を募集し、防災に対する不安やニーズ、伝え方に関する配慮事項を収集した。これらの取り組みを通じて、「誰一人取り残さない防災教育」という視点を重視した内容設計の基盤を構築した。

■成果(提供者)

完成した防災絵本は、児童発達支援施設、小学校、地域施設等で読み聞かせを実施した。

保護者と子どもが同時に参加する場を設けることで、防災を家庭内で共有する機会を創出した。

また、教職員や施設職員へ活用方法のレクチャーを行い、単発イベントにとどまらない継続的活用体制を構築した。

絵本は単なる制作物ではなく、「防災コミュニティ推進教育」のツールとして位置付けられるに至った。



<p>事業内容①を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<p><b>★実施内容 A★</b>  <b>■発生した課題や失敗点</b>          ・インプット段階では「まずは現場を知ること」を最優先に設計したため、実施自体は円滑に進行した。一方で、学びが能登半島・穴水町を中心とした特定地域の事例に集中し、他地域の災害特性や行政・支援団体・教育現場等の視点を横断的に整理する段階には至らなかった。          ・防災絵本制作においても、初期段階からより多様な地域性や立場を組み込む設計ができていれば、さらに多面的な内容構成が可能であったと考えられる。インプット設計の拡張性という観点で課題が残った。          ・また、当初は絵本を「制作し寄贈すること」を主なアウトプットとして想定していたが、制作段階から活用方法やコミュニティ形成までを見据えた運用設計を十分に組み込めていなかった。絵本を単なる成果物とするのではなく、「防災コミュニティ推進教育」のツールとして位置付ける視点の整理が後追いになった点も課題であった。          ・さらに、社員は被災地で体験型研修を通じて学ぶことができた一方、防災エヴァンジェリストとなる学生に対しては座学中心のインプットが多くなり、体験の質に差が生じた。体感的学びを全体へ還元する設計が十分ではなかった。</p> <p><b>■乗り越えた方法</b>          ・被災地での学びを単発体験にとどめず、福島県浪江町において地域関係者・企業・研究員との対話機会を設け、地域主体の防災体制に関する視点を補完した。          ・絵本制作では、インターナショナルスクール在籍児童や配慮を必要とする子どもの保護者等へのアンケート・意見交換を実施し、多様な立場の当事者へのアンケート・意見交換を実施し、設計段階から複眼的視点を組み込んだ。          ・完成後は寄贈のみで終えず、読み聞かせ実施および教職員への活用レクチャーを行うことで、継続活用を前提とした運用設計へと転換した。          ・今後は、体育館を活用した避難所生活疑似体験など、被災地訪問を伴わない体験型プログラムのモデル化を進め、体験の質を標準化する方針とした。</p> <p><b>★実施内容 B★</b>  <b>■発生した課題や失敗点</b>          ・子どもには楽しく、大人には学びのある内容を目指したが、幼児向けに情報量を抑えつつ誤解を生まない構成とすることが難しく、表現の精度と教育的妥当性の両立に時間を要した。          ・都市部・農村部・沿岸部・寒冷地など地域特性によって災害リスクが異なるため、全国一律で活用できる内容設計の難しさが明らかとなった。          ・紙媒体としての強みがある一方、防災情報の更新性という観点では改訂の柔軟性に課題が残る。          ・読み聞かせのみでは「理解」にとどまり、「行動変容」まで至らない可能性がある。絵本単体での効果には限界があることも認識された。          ・能登での視察を通じ、被災直後の混乱や精神的不安定さを目の当たりにした。被災後に本を目にした際に精神的負担を与えない構成にする必要があり、表現の配慮に時間を要した。</p> <p><b>■乗り越えた方法</b>          ・幼児向け「マイルド版」を制作し、年齢や理解度に応じた活用が可能な設計とした。          ・ラストシーンは感動的演出ではなく日常場面で終える構成とし、被災後の心理状態にも配慮した内容へと修正した。          ・読み聞かせと対話を組み合わせ、単なる読了体験に終わらない行動接続を意識した運営設計へ改善した。          ・今後はワークショップや体験型プログラムと組み合わせることで、「理解」から「実行」へと接続するモデルを構築する。</p>
<p>事業内容①を実施 する上で工夫した 点</p>	<p><b>★実施内容 A★</b>          ・本事業では、「自分たちの世代にとっての防災教育とは何か」「地域コミュニティとは何か」という問いから設計を開始した。若い世代にとって地域との接点が希薄になりやすく、防災も受け身になりがちであるという前提を踏まえ、まずはリーダーとなる自分たち自身が防災を“自分事”として捉えられる学習設計を重視した。          ・座学のみで完結させるのではなく、元自衛官や有識者による基礎講義を経た上で、現地での避難生活疑似体験や被災者との対話を組み込み、制度や理論ではなく「関係性」や「信頼」を体感できる設計とした。          ・特に、インターネットや報道等の二次情報に依拠せず、一次情報に触れることを重視した点は大きな工夫である。現場で得た体験を起点に考える姿勢を徹底することで、防災を知識としてではなく、行動に</p>

	<p>接続可能な学びへと転換することを目指した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらに、学びを個人の体験で終わらせず、防災絵本の企画・設計へと接続することで、体験を次世代へ循環させる構造を組み込んだ。</li> </ul> <p>★実施内容 B★</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分の身は自分で守る」「誰一人取り残さない」という理念を軸に、年齢や背景の異なる子どもに配慮した二層構造(通常版・マイルド版)の設計を行った。</li> <li>・被災後の心理状態を考慮し、過度な緊張や恐怖を煽る表現を避け、日常へ戻るラスト構成とすることで、安心感と行動の両立を意識した。</li> <li>・制作段階から読み聞かせや対話の実施を前提とし、単なる教材ではなく「コミュニティ形成の媒介」として機能する設計を意図した。</li> <li>・アンケートや意見交換を通じ、多様な立場の声を設計段階に反映させるプロセスを組み込んだ。</li> </ul>
<p>事業内容① 残課題等</p>	<p><b>1. 体験型インプットの標準化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・被災地での体験型研修は高い学習効果をもたらした一方、時間・予算・地理的制約により全学生へ同水準で提供することは困難であった。</li> <li>・社員と学生との間で体験の質に差が生じ、一次情報を基盤とした視座の共有が十分とは言えなかった。</li> </ul> <p>今後は、被災地訪問を必須としない代替型プログラム(体育館を活用した避難所生活体験等)を設計・モデル化し、体験型学習を標準化することで、より多くの学生が同水準の学びを得られる仕組みを構築する。</p> <p><b>2. 学びの整理フレームの不足(社員・学生共通課題)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本事業全体としては「インプット→実践→アウトプット」の循環設計は構築できたが、防災エヴァンジェリスト一人ひとりの成長プロセスに焦点を当てた設計は十分ではなかった。</li> <li>・被災地で学んだ「関係性の重要性」を、ワークショップ設計や地域連携へどのように反映するかについて、共通の整理フレームが不足していた。</li> <li>・その結果、企画設計や運営方法が個人の経験値や理解度に依存しやすく、実践の質にばらつきが生じる場面があった。</li> </ul> <p>今後は、設計テンプレートの整備、振り返りフォーマットの標準化、成長段階に応じた役割設計の明確化、運営チェックリストの作成等を通じて、育成プロセスを再設計する。</p> <p><b>3. 教材の展開性と更新性</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域特性(都市部・沿岸部・農村部等)による災害対応の違いへの反映は十分ではなく、地域差への応用設計が今後の課題である。</li> <li>・印刷物としての絵本は即時性や安心感を持つ一方、防災情報の更新に柔軟に対応する仕組みは未整備である。</li> <li>・読み聞かせのみでは「理解」にとどまり、「行動」への転換を十分に担保できない可能性がある。</li> </ul> <p>今後は、地域特性に応じた補助資料の整備、ワークショップとの併用設計、情報更新に対応可能な仕組みの検討を進める。</p>

事業内容② なか:実践(協働)	
事業内容②目標 (提供者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・駒澤大学、順天堂大学、福岡大学、琉球大学等において、防災エヴァンジェリストとして主体的に活動できる学生 50 名を育成する。</li> <li>・学生が「受け手」ではなく「担い手」として防災企画を立案・運営できる力を養い、避難所運営ワークショップを自律的に企画・実施できる状態を目指す。</li> <li>・大学・地域・行政との協働関係を構築し、防災教育を単発イベントで終わらせず、継続的な関係性へと発展させる。</li> <li>・実践を通じて得られた学びや運営ノウハウを整理し、他大学・他地域でも再現可能なモデルとして体系化する。</li> <li>・学生自身が防災を語り、社会へ接続する循環構造を構築する。</li> </ul>
事業内容②目標 (参加者側)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災を「知る」だけでなく、「自分たちが担うもの」として再定義する。</li> <li>・避難所運営や地域協働訓練を通じ、防災を生活や将来と接続可能な課題として捉える。</li> <li>・同世代との協働および地域住民との対話を通じ、信頼関係を構築しながら主体的に行動する経験を得る。</li> <li>・防災を特別な訓練ではなく、日常の延長線上にあるものとして捉える視点を身につける。</li> </ul>
事業内容② 実施内容 A (実施日 12/12-13)	<p>■具体的な取り組み内容</p> <p>福岡大学において、避難所運営ワークショップおよび地域協働避難訓練を実施した。本取り組みは、福岡大学・城南区役所・学生災害医療団体が連携して行ったものであり、弊社は防災エヴァンジェリスト育成の一環として参画した。</p> <p>防災エヴァンジェリストは防災企画書を作成し、事前準備会議を重ねながら地域との接点を構築した。単なる参加にとどまらず、企画段階から関与する構造を設計した点が特徴である。</p> <p>その結果、学校および城南区が継続的に実施している防災イベントの枠組みにおいて、学生が運営補助・広報面で関与する形での参画が実現した。</p> <p>弊社は参加者募集の支援および実践内容の整理を担い、実施後には振り返りを通じて継続的活動の方向性を学生とともに検討した。</p> <p>■成果(提供者・参加者共通)</p> <p>福岡大学における実践への参画を通じ、参加者は地域行政や他団体と連携しながら防災に関わる経験を得た。</p> <p>防災企画書の作成や事前準備、地域や学校との意見交換を経て運営に関与したことで、防災を「参加するもの」から「継続的に関わるもの」へと捉える視点の変化が見られた。</p> <p>また、簡易トイレや段ボールベッドの設営体験を通じ、避難所運営を具体的な生活課題として理解する機会となった。</p> <p>さらに、実施後の振り返りを通じて継続的関与の必要性が共有され、学内での防災サークル設立へと発展する動きが生まれた。</p>



事業内容②  
実施内容 B  
(実施日:  
12/18-19)

■具体的な取り組み内容  
海外研修や地域社会との協働に関心のある山口県内の学生を対象に、代表による講演および意見交換を実施した。  
講演では、被災地での実体験に加え、代表自身のカンボジアでの不自由な暮らしや「生きる力」を共有し、防災を災害時の対応に限定せず、平時からの主体性や備えと接続した概念として提示した。  
医療や工学を学ぶ学生が多いことを踏まえ、防災を各専門分野や将来の進路と接続して捉えられるよう設計した。

■成果(参加者)  
代表によるカンボジアでの不自由な暮らしや「生きる力」をテーマとした講演を通じ、参加者は防災を災害時の対応に限定せず、平時からの主体性や備えと結びつけて捉える視点を得た。  
医療・工学の学びをどのように防災へ活かせるかを考える契機となり、防災を「生きる力」として捉える姿勢が醸成された。  
その結果、防災と国際協働を横断する実践の検討が進み、カンボジアツアーの実施が2027年春に決定した。



事業内容②  
実施内容 C  
(実施日:12/20)

■具体的な取り組み内容  
駒澤大学および順天堂大学の防災エヴァンジェリストが協働し、避難所運営ワークショップおよび地域協働避難訓練を実施した。  
大学を越えてオンラインで事前打ち合わせを重ね、ワークショップの構成、進行方法、役割分担を共同で設計した。  
順天堂大学の学生は医療系の関心を活かし、避難所における衛生管理や要配慮者支援の視点を取り入れた。  
駒澤大学の学生は運動系サークルでの経験を活かし、チーム運営や機動力の観点から実践性を重視した構成を提案した。  
当日は、グループワーク、発表、振り返りの共有を行い、参加者へ賞状を授与するなど、達成感と主体性を高める仕掛けを取り入れた。参加者が受動的に参加するのではなく、当事者として思考し発言する構造を意図的に設計した。

■成果(提供者・参加者共通)  
本取り組みは、防災エヴァンジェリストにとって初めて自ら主催したイベントであり、企画から運営まで主体的に担う実践機会となった。  
参加者アンケートでは、「防災を自分事として捉えられたか」という問いに対し全員が肯定的に回答した。また、「防災バッグを用意しようと思った」「避難所の場所を確認しようと思った」など、具体的な行動につながる声も寄せられた。  
さらに、終了後に共有した東京都内の防災関連イベントには参加者の約3割が実際に



	<p>参加しており、単発の体験にとどまらず行動継続が確認された。同世代の学生が共通言語で防災を語る場を設けたことが、防災を身近なテーマとして捉える心理的距離の縮小につながったと考えられる。</p>	
<p>事業内容② 実施内容 D (実施日:1/17)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 沖縄市内の公民館にて、防災エヴァンジェリストが中心となり、親子参加型ハザードマップ作成ワークショップおよび元自衛官・島野氏による講演会を実施した。 本地域は幅広い世代が居住している一方、日常的交流が少なく、台風以外の災害への備えが十分でないという課題があった。公民館関係者からの課題共有を受け、学生がヒアリングを行い企画を立案した。ワークショップでは地域地図を用い、親子で危険箇所や避難経路を確認し、家庭内で防災を継続的に話題化できる構造とした。講演では自衛官との対話を通じ、実践的備えについて考える機会を設けた。</p> <p>■成果(提供者) 琉球大学の防災エヴァンジェリストは、地域施設へのヒアリングから企画実施までを主体的に担い、地域コミュニティ形成の実践プロセスを経験した。 また、企業コミュニティ(GSC)との接点を得るなど、地域外との連携の可能性も広がった。企画立案から実施までを自ら行った経験は、地域と協働する力の向上につながった。</p>	
<p>事業内容②を実施する中で発生した課題や失敗点</p>	<p>■発生した課題や失敗点 アウトプット段階においては、専門家が常時関与できる体制ではなく、社員および学生を中心に運営する場面が多かった。そのため、想定外の状況や防災対応について意見が分かれる場面では、判断基準の共有不足により意思決定に時間を要する局面があった。実践設計における専門性の補完体制が十分でない点が課題として明らかとなった。 また、沖縄公民館でのワークショップでは参加者が10名にとどまり、集客面で十分な成果を上げることができなかった。日程は公民館側調整によるものであったが、県大会や大学共通テストと重なった影響もあった。一方で、日程条件が限定される中でも、ターゲット別の広報設計や告知導線の多様化が不十分であったことも事実である。 これらの経験を通じ、地域コミュニティ形成は「場の提供」や「内容設計」だけでなく、「判断軸の明確化」や「人が集まる導線設計」までを含めて構築すべきものであるという実践的課題が明確になった。</p> <p>■乗り越えた方法 ・判断に迷う場面では、本事業が重視する「コミュニティ防災」という概念に立ち返り、地域の関係性や主体性を軸に考えることを基本方針とした。 ・インターネット上の二次情報に依拠するのではなく、インプット段階で得た一次的な学びや現地での体験を起点に考察する姿勢を重視した。その上で、学生とともに議論を重ね、判断に至るまでのプロセス自体を学習機会として位置づけた。正解を与えるのではなく、ともに考えることを通じて、判断力と当事者意識を育む運営へと転換した。 ・実施後には振り返りの場を設け、議論が生じたテーマを整理した上で、専門家の助言や先事例を参照しながら判断軸の明確化と知見の補強を行った。</p>	
<p>事業内容②を実施する上で工夫した点</p>	<p>・自らも学生である立場から学生にとって防災や地域コミュニティが日常的テーマになりにくいという世代特性を踏まえ、有識者からの一方的な講義形式ではなく、まず学生自身が「何が分からないのか」「どう感じているのか」を言語化する対話の時間を重視し、ともに創る構造とした。 ・インターネット等の二次情報に触れる機会が多い世代特性を踏まえ、防災においては一次情報や人との関係性、正確な知識が不可欠であることを意識的に共有した。その上で、「生きる力」や「エヴァンジェリスト」というキーワードを軸に、学びを自分事へ転換できる企画構造を設計した。</p>	

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災エヴァンジェリストは全員大学3年生以下とし、将来的に自らの大学で後輩を育成する立場となることを前提に選抜した。単年度型ではなく継続的育成を見据えた人材設計を行った。</li> <li>・学生を「参加者」ではなく「担い手」として位置づけ、企画立案・役割設計・運営までを主体的に担う構造とした。責任を持って関わることで、防災や地域との関係を実践として学べる環境を整えた。</li> <li>・専門性や背景の異なる複数大学の防災エヴァンジェリストが定期的に交流し、互いの視点を持ち寄りながら、防災教育や地域コミュニティの在り方について、自分たちの言葉で問い直す時間を設けた。机上の議論にとどまらず、実践に接続する思考の場を意図的に設計した。</li> <li>・単発のイベントで終わらせないため、実施後の振り返り、次回企画への接続、地域との継続的対話までを含めて設計し、防災を継続的な実践へとつなぐ仕組み化を図った。</li> </ul>
事業内容② 残課題等	<p><b>1. 実践モデルの体系化不足</b> 各地域で実施したワークショップや地域協働避難訓練を通じて多様な学びが得られた一方、それらを横断的に整理し、再現可能な実施モデルとして形式知化する作業は十分ではなかった。今後は、実施手順・成功要因・改善点を整理し、他地域でも活用可能な標準モデルとしてまとめる必要がある。</p> <p><b>2. 地域防災人材との継続的連携の構築</b> 避難所運営委員会等の地域人材と平時から関係性を築くことができれば、災害時の連携強化につながると想定していたが、高齢化や多忙等の事情により、学生との継続的な関与は容易ではなかった。地域との連携には対面での信頼構築と継続的関与の仕組みが不可欠であることが明確となった。今後は、地元学生が継続的に関与できる体制づくりを進める。</p> <p><b>3. 対象年齢に応じたプログラム設計の最適化</b> 講演型の手法は一定の効果を示したが、年齢層によって理解度に差が見られた。特に小中学生に対しては体験型プログラムの比重を高める必要がある。今後は、対象に応じた学習設計の精緻化を進める。</p> <p><b>4. 世代間知見継承の仕組み化</b> 地域防災人材が有する実践的知見を、単発の交流で終わらせず、学生へ継続的に継承する仕組みは十分に構築できていなかった。今後は、世代間連携を前提とした役割設計と仕組みづくりを進める必要がある。</p>

事業内容③ おわり:アウトプット	
<p>事業内容③目標 (提供者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インプット→実践で得られた知見を社会へ還元し、防災エヴァンジェリストが地域に根ざして活動を継続できる循環構造を構築する。</li> <li>・教材開発やワークショップの成果物をブラッシュアップし、翌年度以降の実践へ接続可能な形で整理・共有することで、防災教育モデルの持続可能性を高める。</li> <li>・外国人住民や留学生等、多文化背景を持つ住民と協働する機会を設け、防災を多文化共助の視点から再構築する。</li> <li>・活動評価を経て防災エヴァンジェリストを認定し、地域・行政・企業と連携しながら継続的に活躍できる場を創出する。</li> <li>・ラジオ・SNS・地域メディア等を活用し、学生自身が自らの言葉で学びと実践を発信することで、若者主体の持続可能な防災文化を地域から全国へ循環させる。</li> </ul>
<p>事業内容③目標 (参加者側)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身の学びと実践を整理し、他者へ伝える力を身につけることで、防災を「語れる」「広げられる」存在へと成長する。</li> <li>・地域住民や外国人住民、子ども施設等への発信を通じ、防災を世代・文化を越えて共有する経験を得る。</li> <li>・活動評価を通じて自らの成長を可視化し、防災エヴァンジェリストとしての自覚と責任を持つ。</li> <li>・単発のイベント参加で終わらせず、地域や大学内で継続的に活動を展開する主体としての姿勢を確立する。</li> <li>・発信活動を通じて、防災を「自分事」から「社会に働きかける実践」へと発展させる。</li> </ul>
<p>事業内容③ 実施内容 A (実施日 12 月上旬～)</p>	<div style="display: flex;"> <div style="flex: 1; padding-right: 10px;"> <p>■具体的な取り組み内容</p> <p>アンケートを実施した施設において、著者および防災エヴァンジェリストが教職員と連携し、防災絵本の読み聞かせを実施した。制作過程で意見提供を行った当事者への成果還元の機会として位置付けるとともに、教材の有効性および教育現場における実装可能性を検証した。</p> <p>読み聞かせ後には教職員との意見交換を行い、継続活用の在り方や改善点について確認した。</p> <p>■成果(提供者)</p> <p>成果物の提示にとどまらず、「防災コミュニティ教育」という本事業の設計思想を実践の場で具体化する機会となった。</p> <p>また、絵本を単体の成果物とするのではなく、地域特性に応じた補助資料整備やワークショップとの併用設計等、継続的活用に向けた改善課題を明確化した。</p> <p>総じて、本取り組みにより、防災教育を一過性の啓発活動ではなく、地域と協働しながら発展させるコミュニティ型教育モデルとして整理する視点が明確化された。</p> </div> <div style="flex: 1;">   </div> </div>

		
<p>事業内容③ 実施内容 B (実施日:全期間)</p>	<p>■具体的な取り組み内容 防災エヴァンジェリストが、福島県内の地域ラジオ局「ウルトラ FM」およびニコニコチャンネル内のコミュニティにおいて、本事業での学びおよび実践内容を発信した。番組内では、学生が日々の活動で得た学びや防災絵本制作の過程について等身大の言葉で共有するとともに、防災に関するクイズ企画や、若者視点で関心の高いテーマの調査結果を台本化して発信した。これにより、防災を身近な課題として捉える機会をリスナーへ提供すると同時に、発信者自身にとっても学びを再整理し、深化させる機会となった。</p> <p>また、保護者を主な対象とするオンラインコミュニティにおいては、視聴者とのコメント交流を通じて意見や質問を受け付け、一方向的な広報にとどまらない対話型の発信機会として位置付けた。</p> <p>■成果(提供者) 本取り組みにより、防災エヴァンジェリストが実践経験を整理・言語化し、社会へ発信する機会を創出した。</p> <p>学生が自らの言葉で発信することを通じて、防災を継続的に自分事として捉え、他者へ伝達する役割を担う「エヴァンジェリスト」としての自覚を形成する契機となった。</p> <p>また、本企画を通じて問い続けてきた「コミュニティ」の在り方について、デジタル空間上のオンラインコミュニティにおける双方向的交流を通じ、防災を軸としたコミュニティ形成の可能性を体感する機会となった。</p> <p>さらに、地域ラジオという媒体に触れることで、災害時におけるラジオの情報伝達機能およびライフラインとしての重要性を再認識する機会となった。</p> <p>総じて、本取り組みは「学び」「実践」で得られた知見を社会へ還元する仕組みとして機能し、防災教育の循環構造を補完する役割を果たした。</p>	

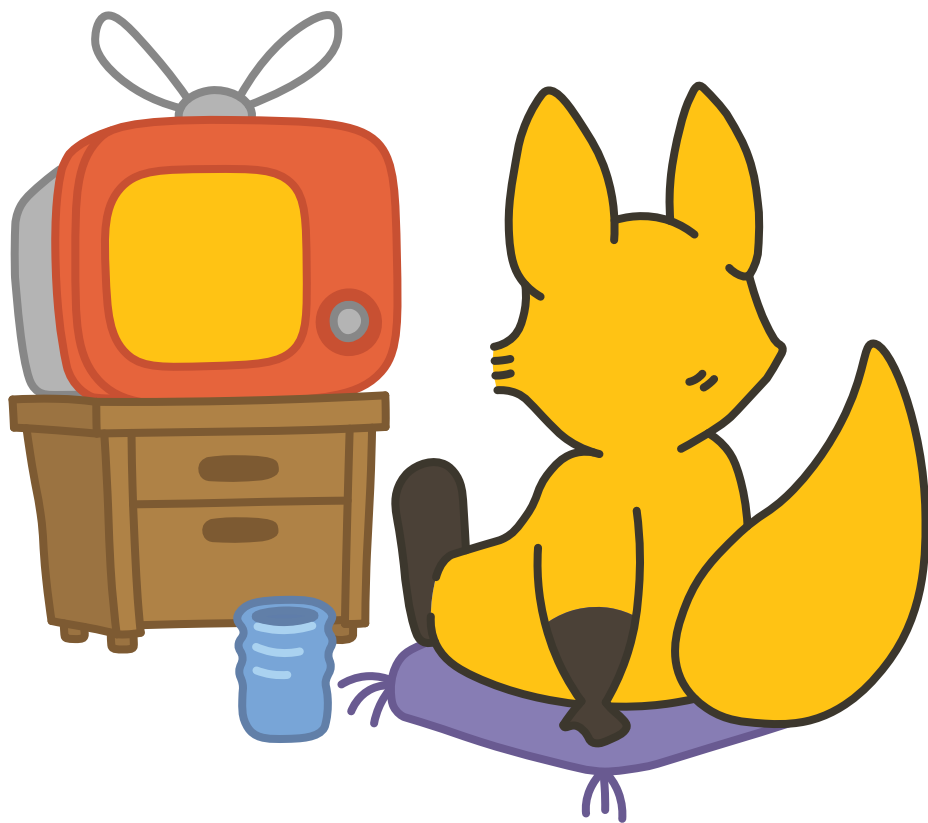
<p>事業内容③を実施 する中で発生した 課題や失敗点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・防災絵本の読み聞かせは実施できたものの、第三者による活用を前提とした運営マニュアルや進行手順書の整備が十分ではなかった。その結果、他地域・他施設へ展開する際の再現性および標準化の観点で課題が残った。</li> <li>・絵本を単発の読み聞かせにとどめず、家庭内で継続的に活用してもらうための仕組みづくりが十分ではなかった。特に、保護者に対する活用意義の明確化や、持ち帰り後の実践導線の設計が限定的であった。</li> <li>・ラジオ発信は実施したものの、放送内容やリスナーとのやり取りを整理・再構成し、若年層に親和性の高い SNS 等で二次発信する仕組みまでは構築できなかった。そのため、発信効果の持続性および波及性の最大化という観点で改善の余地がある。</li> <li>・発信内容の体系的な記録およびアーカイブ化が十分ではなく、今後の教材化や広報資産としての戦略的活用体制の構築が課題として残った。</li> </ul>
<p>事業内容③を実施 する上で工夫した 点</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当初は絵本の完成を成果の中心と捉えていたが、事業過程において、成果物を最終到達点とするのではなく、防災コミュニティ教育を地域へ波及させるための教育ツールとして再定義した。これにより、制作後の読み聞かせ実施、教育現場での有効性検証、継続活用を前提とした設計へと事業構造を再設計した。</li> <li>・成果物の還元を起点に、制作—検証—改善—再活用の循環を組み込むことで、単発的な成果提示型事業から、持続可能な防災教育モデルへの転換を図った。</li> <li>・ラジオ発信については、学生世代にとって必ずしも身近な媒体ではないことを踏まえつつ、災害時における公共的情報伝達手段としての重要性を理解させる教育的機会として位置付けた。媒体選択そのものを学習設計の一部とした点が特徴である。</li> <li>・学生が台本作成および企画設計を担う体制とし、受動的な出演にとどまらない主体的発信を実践させた。活動の各段階において「伝える責任」を自覚させることで、防災エヴァンジェリストとしての役割意識を育成した。</li> </ul>
<p>事業内容③ 残課題等</p>	<p>本事業の最終目標は、チャレンジ精神を有する防災の担い手を育成することであった。その過程においてアウトプット機会の創出は重要な要素であったが、これまでのアウトプットでは、発信機会の設計や媒体選定について主催側が主導する構造となる場面も見られた。</p> <p>今後は、防災エヴァンジェリスト自身が発信手段を選択し、企画立案から実行までを主体的に担う段階へと移行させる必要がある。具体的には、絵本読み聞かせの定期化や、学生自身によるポッドキャスト等の自主メディア運営など、学生が防災の担い手として自ら必要と考えるテーマや方法を選択し、発信できる環境を整備することが求められる。</p> <p>そのためには、単に機会を提供するのではなく、企画設計、媒体選定、実践、振り返りまでを一貫して伴走支援する体制を整備し、「機会を与える育成」から「機会を創出できる担い手の育成」へとモデルを高度化させることが課題である。これにより、防災エヴァンジェリストが継続的に活動を展開できる基盤を構築する必要がある。</p>

# コロンボウサイ



元自衛官  
島野辰也 監修





ある日きつねくんがおうちにいると…



ドンッ！なんだ！



地震だ！揺れてる！

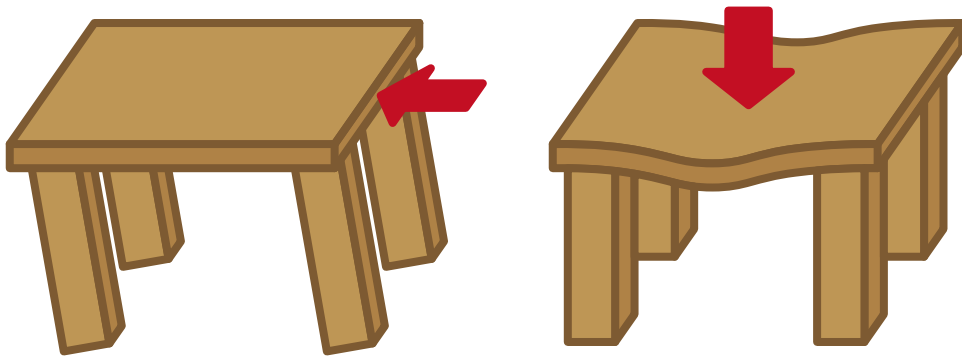


あっ。ものが落ちてきそう。逃げなきゃ！



ココン! 「変化」ッ!

図解  
身の安全確保

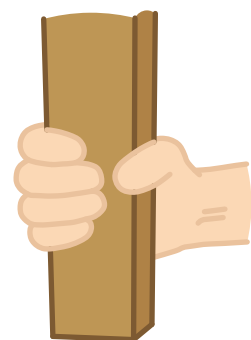


机は水平力と垂直力の  
両方に耐えられないといけない。



すばやく机の下に隠れよう。

つくえのあしを  
しっかり押さえよう。





ふ〜。あぶなかった。



外は大丈夫かな。安全な所へ避難しよう。



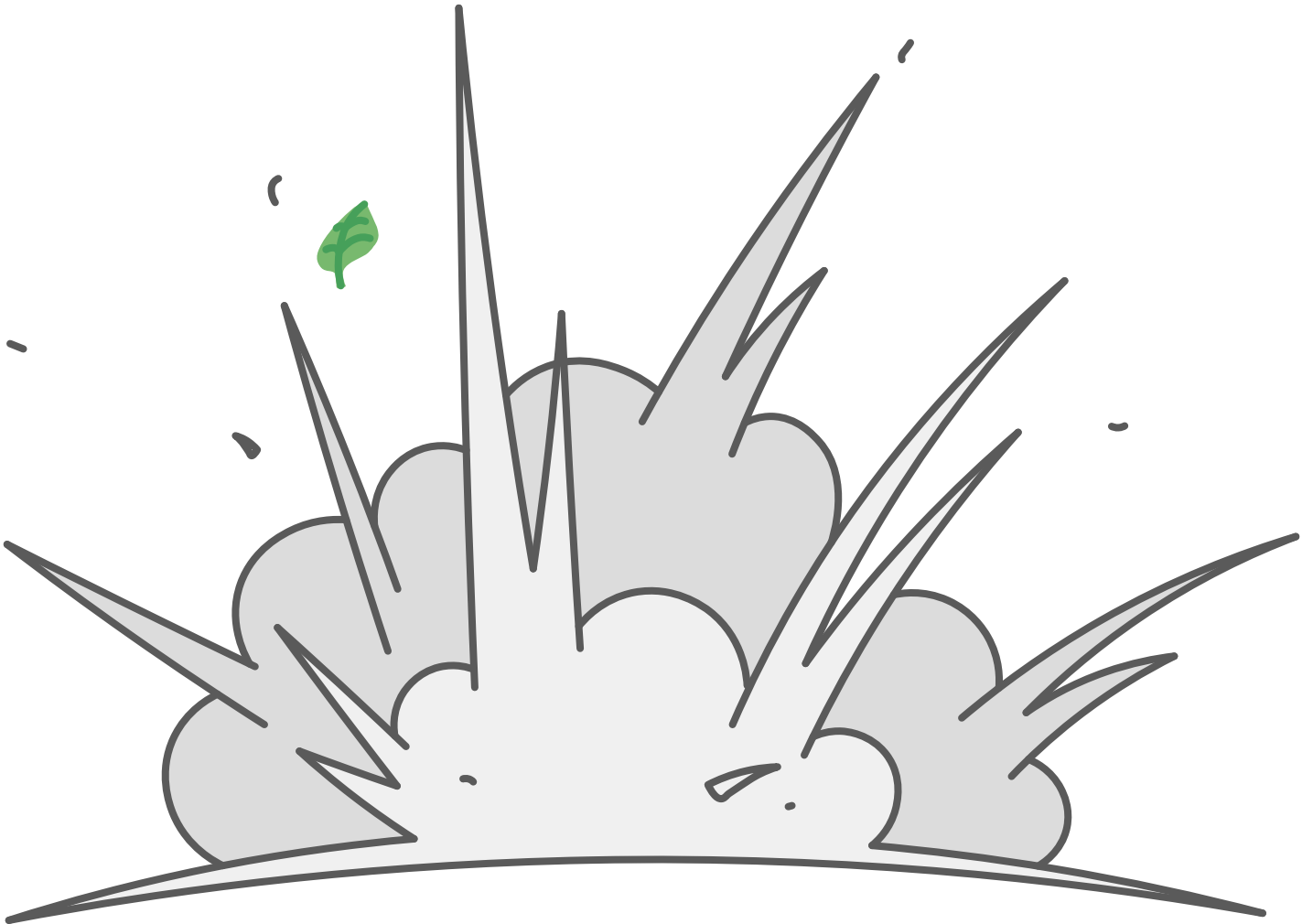
なにを持っていこう。あれもこれも持っていきたい。



持ち上げられなくなっちゃった。



こんなときは…ココソソ!



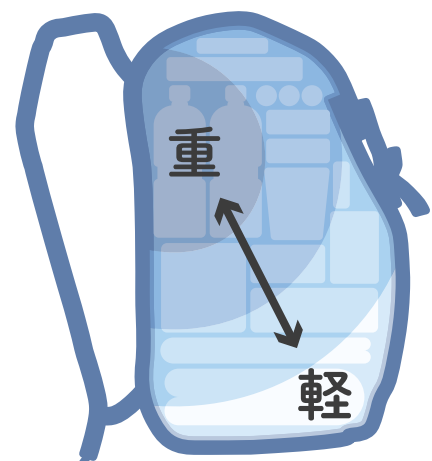
「変化」ッ!!

# 図解 防災バッグ



## 荷物を軽く背負う術

水や食べ物などの重たい物を上に  
衣服など軽いものを下に詰めると  
荷物の重心が体に近くなるので、  
軽く感じられるようになるよ。



## まず最優先に準備する物



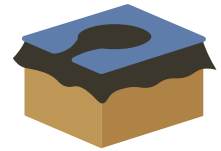
水 4.5L  
(1人1日1.5L)



食料  
(ゼリー飲料/レトルト等)



懐中電灯  
+ 予備の電池



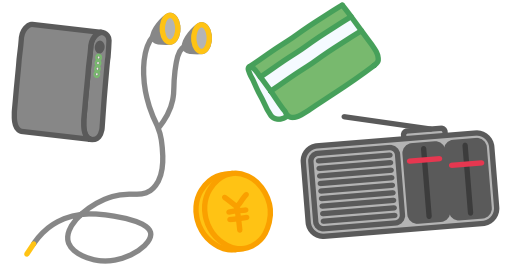
簡易トイレ

## 身体を守るための物



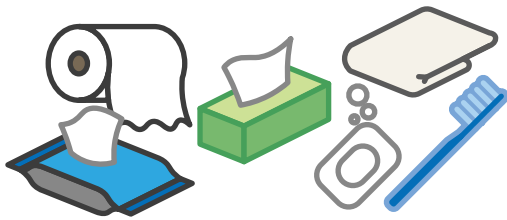
- 衣類 (一人1セット)
- 防災ヘルメット
- レインウェア
- 軍手
- マスク
- 笛 / ホイッスル
- 防犯ブザー

## 電源 / 情報 / 連絡のための物



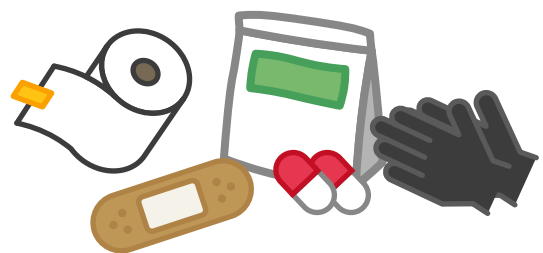
- モバイルバッテリー
- ラジオ (手回し充電式)
- イヤホン
- 現金 (小銭多め)
- 保険証のコピー
- 貴重品 (通帳等)

## 衛生 / 寒さ対策のための物



- ウェットティッシュ
- ティッシュ
- 消毒 (アルコール等)
- 石鹸・ハンドソープ
- 洗面用具
- 歯ブラシ / 歯磨き粉
- 生理用品
- ゴミ袋 (大小)
- ジップ袋 (密閉袋)
- フェイスタオル
- (一人2~3枚)
- アルミブランケット
- 使い捨てカイロ

## 応急手当のための物



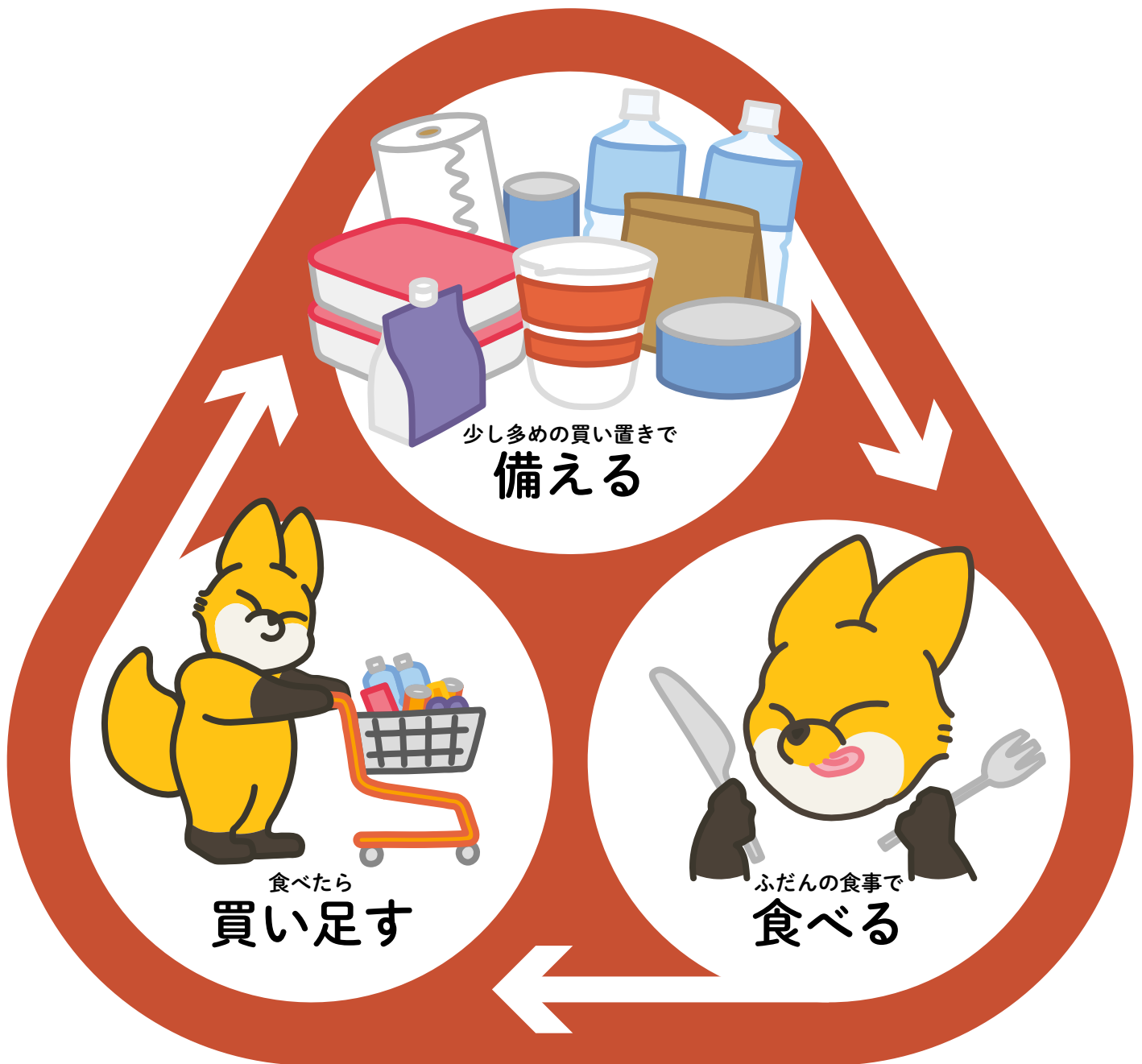
- 絆創膏
- ガーゼ / 包帯
- 常備薬
- 使い捨て手袋



子ども用品

女性の備え

高齢者に必要な用品



食べながら備える  
**ローリングストック**

災害時に困るのは「水・食べ物・衛生」。  
ローリングストックとは普段の食品を少し多めに持って、  
古い順に使いながら補充する備え方。

- × 家族の食の好み合わない
- × 賞味期限が切れていた
- × 缶切りなどがなくて開けられない

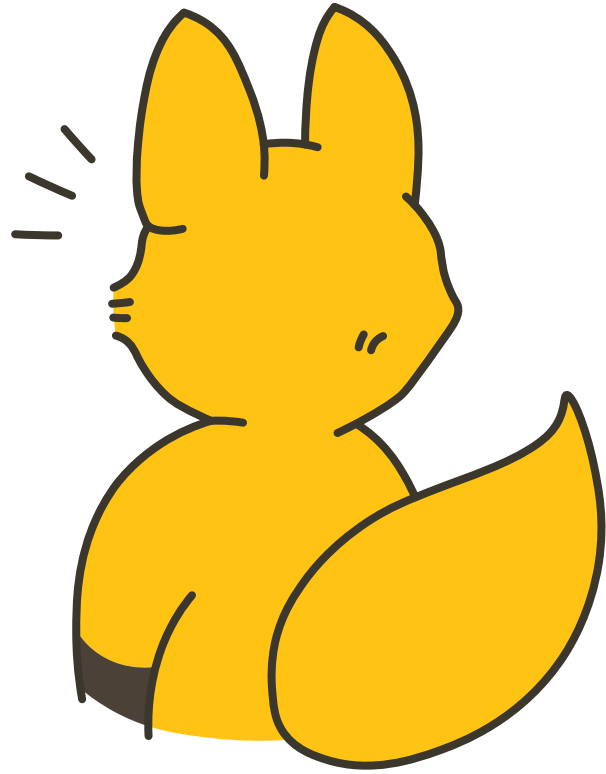
を防げる！



よし準備できた。気を付けて外へ。



頭上からものが落ちてこないか気をつけながらそろりそろり。



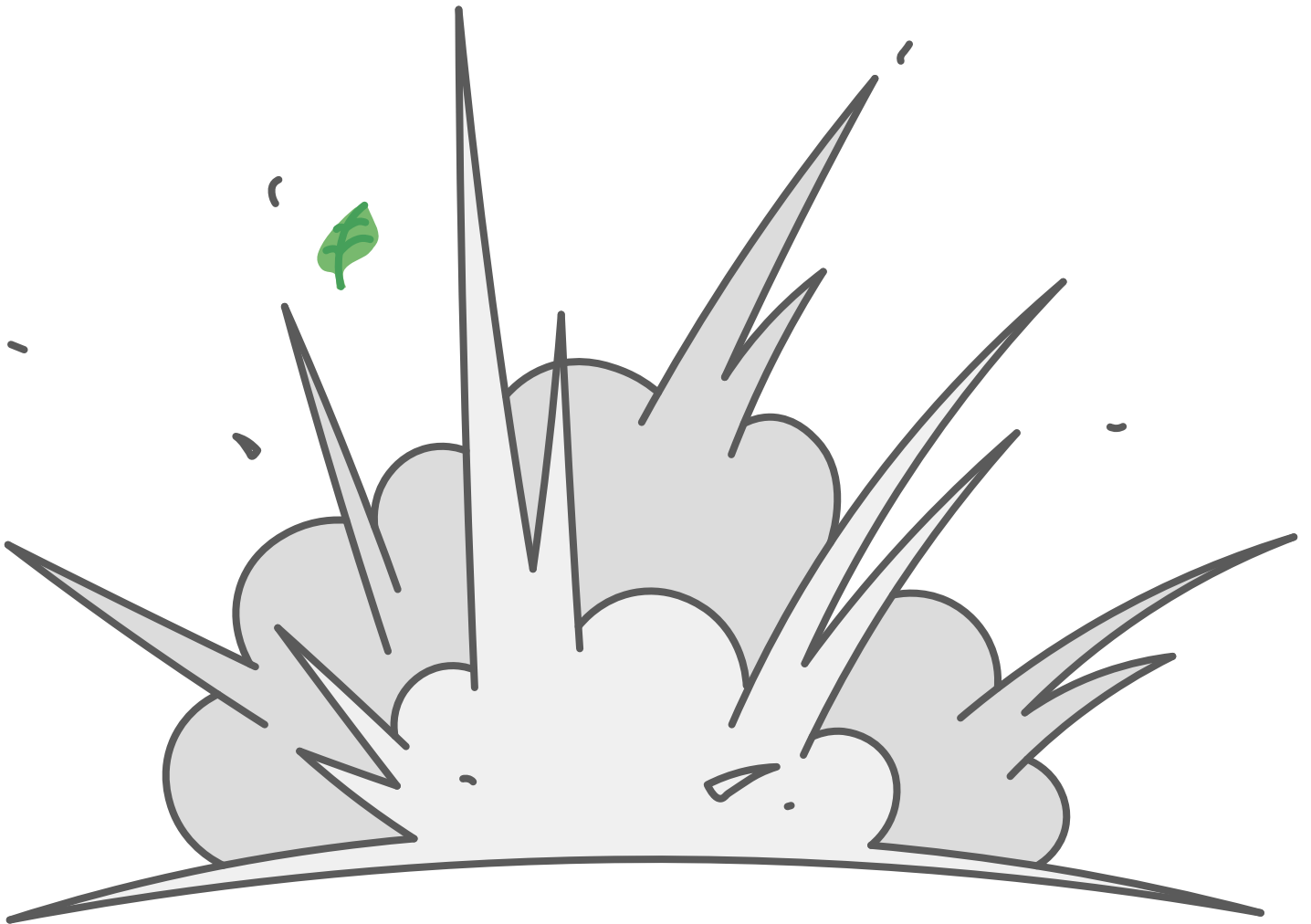
うん？なんだろう？



言葉で苦労してるみたい。



こんなときは…ココソ!



「変化」ツ!!



# 指さしコミュニケーションシート

## Pointing Communication Sheet

JP / EN / 中文 / 한국어 A3 両面

はい

Yes

是 / 네

いいえ

No

不 / 아니요

わからない

I don't know

我不知道 / 잘 모르겠어요

やめて

Stop

停止 / 멈춰주세요

待って

Wait

等一下 / 잠깐만요

### よく使うフレーズ / Common phrases / 常用短语 / 자주 쓰는 문구

# SOS

助けて！

Help!

救命！

도와주세요!



危険！

Danger!

危险！

위험해요!



火事

Fire!

着火了！

불이야!



ガス臭い

I smell gas.

我闻到煤气味。

가스 냄새가 나요.

逃げよう

Evacuate.

撤离。

대피해요.

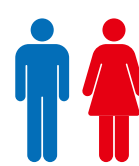


水をください

Water, please.

请给我水。

물 좀 주세요.



トイレはどこ？

Where is the toilet?

厕所在哪里？

화장실이 어디예요?

迷子です

I'm lost.

我迷路了。

길을 잃었어요.

ひとりです

I'm alone.

我一个人。

혼자예요.

子どもがいます

I have a child.

我有孩子。

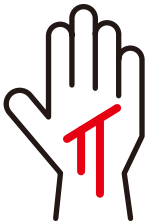
아이가 있어요.

家族を探しています

Looking for family.

我在找家人。

가족을 찾고 있어요.



けがをしました

I'm injured.

我受伤了。

다쳤어요.



救急車を呼んでください

Call an ambulance.

请叫救护车。

구급차 불러주세요.

息が苦しいです

I can't breathe.

我呼吸困难。

숨쉬기 힘들어요.

通訳が必要です

I need an interpreter.

我需要翻译。

통역이 필요해요.

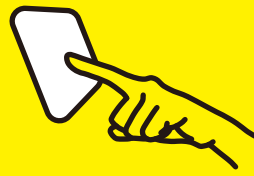
日本語が苦手です

I don't speak Japanese well.

我日语不好。

일본어를 잘 못해요.

伝えたいことを表すカードを、ゆっくり指さしてください。  
 Slowly point to the cards that show what you want to say.  
 请慢慢指向能表达您想说内容的卡片。  
 전하고 싶은 내용을 나타내는 카드를 천천히 가리켜 주세요.



応急処置問診 / First aid interview / 急救问診 / 응급 처치 문진

症状はどれ？ / Which symptom?

什么症状？ / 어떤 증상이에요?

<b>痛い</b> <b>It hurts</b> 疼 아파요	<b>しびれる</b> <b>Numb</b> 麻 저려요	<b>出血</b> <b>Bleeding</b> 出血 피가 나요
<b>力が入らない</b> <b>No strength</b> 没力气 힘이 없어요	<b>違和感がある</b> <b>Feels strange</b> 感觉不对 이상해요	<b>ここにはない</b> <b>Not listed</b> 不在列表里 여기에 없어요

どこ？ / Where?

哪里？ / 어디?

**皮膚**  
**Skin**  
 皮肤 / 피부

**筋肉**  
**Muscle**  
 肌肉 / 근육

**内臓**  
**Organs**  
 内脏 / 내장

**骨**  
**Bone**  
 骨头 / 뼈

**関節**  
**Joint**  
 关节 / 관절

どのくらい？ / How severe?

有多严重？ / 얼마나 심해요?

重い Severe 严重 심함 ← . . . . . → 軽い Mild 轻微 약함

具体症状 / Specific symptoms

具体症状 / 구체적인 증상

<b>咳がでる</b> <b>Cough</b> 咳嗽 기침	<b>発熱</b> <b>Fever</b> 发烧 열
<b>腹痛</b> <b>Stomachache</b> 腹痛 복통	<b>頭痛</b> <b>Headache</b> 头痛 두통
<b>下痢</b> <b>Diarrhea</b> 腹泻 설사	<b>嘔吐</b> <b>Vomiting</b> 呕吐 구토
<b>鼻水</b> <b>Runny nose</b> 流鼻涕 콧물	<b>喘息</b> <b>Asthma</b> 哮喘 천식
<b>めまい</b> <b>Dizziness</b> 头晕 어지럼	<b>けいれん</b> <b>Seizure</b> 抽搐 경련
<b>動悸</b> <b>Palpitations</b> 心悸 두근거림	<b>胸が苦しい</b> <b>Chest tightness</b> 胸闷 가슴 답답함
<b>発疹</b> <b>Rash</b> 皮疹 발진	<b>アレルギー</b> <b>Allergy</b> 过敏 알레르기
<b>脱水</b> <b>Dehydration</b> 脱水 탈수	<b>熱中症</b> <b>Heatstroke</b> 中暑 열사병
<b>低体温</b> <b>Hypothermia</b> 低体温 저체온증	<b>不安 / パニック</b> <b>Anxiety / panic</b> 焦虑 / 恐慌 불안 / 공황
<b>薬が必要</b> <b>Need medicine</b> 需要药 약 필요	<b>薬を飲んでいる</b> <b>Taking medication</b> 正在服药 약 복용 중
<b>妊娠中</b> <b>Pregnant</b> 怀孕 임신	<b>持病があります</b> <b>Chronic condition</b> 慢性病 지병

Subjects / 目标 / 목적어

 食べ物 Food 食物 / 음식	 毛布 Blanket 毛毯 / 담요	 マット Mat 垫子 / 매트	 着替え Clothes 衣服 / 옷	 靴 Shoes 鞋 / 신발	 スリッパ Slippers 拖鞋 / 슬리퍼	 タオル Towel 毛巾 / 수건
 トイレットペーパー Toilet paper 卫生纸 / 화장지	 ウェットティッシュ Wet wipes 湿巾 / 물티슈	 マスク Mask 口罩 / 마스크	 消毒 Sanitizer 消毒 / 소독제	 せっけん Soap 肥皂 / 비누	 歯ブラシ Toothbrush 牙刷 / 칫솔	
 生理用品 Sanitary pad 卫生巾 / 생리대	 おむつ Diaper 尿布 / 기저귀	 ゴミ Trash 垃圾 / 쓰레기	 ゴミ袋 Trash bag 垃圾袋 / 쓰레기봉투	 物資 (配給) Supplies 物资 / 물자	 情報 Information 信息 / 정보	 連絡 Contact 联系 / 연락
 Wi-Fi Wi-Fi 网 / 와이파이	 電源 Power outlet 插座 / 콘센트	 充電 Charging 充电 / 충전	 家族 Family 家人 / 가족	 洗濯 Laundry 洗衣 / 세탁	 シャワー Shower 淋浴 / 샤워	 トイレ Toilet 厕所 / 화장실
 受付 Reception 柜台 / 접수처	 救護所 First aid station 救护点 / 응급처치	 相談所 Information desk 咨询 / 안내	 寝る場所 Sleeping area 睡觉的地方 / 취침 공간	 出口 Exit 出口 / 출구	 入口 Entrance 入口 / 입구	

Details / 细节 / 세부

 あとで Later 以后 / 나중에	 〇日前 ___ days ago ___ 天前 / ___ 일 전	 昨日 Yesterday 昨天 / 어제	 今日 Today 今天 / 오늘	 明日 Tomorrow 明天 / 내일	 〇日後 in ___ days ___ 天后 / ___ 일 후						
 半分 Half 一半 / 절반	 全部 All 全部 / 전부	 子ども Child 孩子 / 아이	 おとな Adult 成人 / 어른	 老人 Elderly 老人 / 노인	 ここ Here 这里 / 여기	 あそこ There 那里 / 저기					
0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	AM	PM

はい Yes 是 / 네	いいえ No 不 / 아니요	わからない I don't know 我不知道 / 잘 모르겠어요	もう一度 Again 再说一遍 / 다시 한 번	ゆっくり Slowly 慢一点 / 천천히
--------------------	----------------------	-----------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------

### ① だれ, どれ / Who, Which / 谁, 哪个 / 누구, 어느 것




 わたし I 我 / 나	 あなた You 你 / 당신	 わたしたち We 我们 / 우리	 この人 This one 这个人 / 이 사람	 あの人 That one 那个人 / 저 사람	 これ This 这个 / 이것
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ② 用件 / Intent / 意图 / 의도

 どこ Where 哪里 / 어디	 なに What 什么 / 뭐	 いつ When 什么时候 / 언제	 だれ Who 谁 / 누구	 どうやって How 怎么 / 어떻게	 ありますか？ Do you have 有吗 / 있어요?
 いくつ？(数) How many? 多少个？ / 몇 개?	 どれくらい？(量) How much? 多少？ / 얼마나?	 どれくらい？(時間) How long? 多久？ / 얼마나 걸려요?			

 ください Please give 请给我 / 주세요	 必要 Need 需要 / 필요해요	 行きたい Want to go 想去 / 가고 싶어요	 来て Come 过来 / 와 주세요	 呼んで Call 请叫 / 불러 주세요
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

 探している Looking for 找 / 찾고 있어요	 教えて Tell me 告诉我 / 알려 주세요	 見せて Show me 给我看 / 보여 주세요	 書いて Write 写 / 써 주세요	 手伝って Help me 帮帮我 / 도와주세요
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

 貸して Lend me 借我 / 빌려 주세요	 運んで Carry 帮我搬 / 옮겨 주세요	 確認して Check it 确认一下 / 확인	 できない Can't 不能 / 못 해요	 いらない Don't need 不需要 / 필요 없어요
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

### ③ 目的語 / O



水  
Water  
水 / 물



ティッシュ  
Tissues  
纸巾 / 휴지



薬  
Medicine  
药 / 약





携帯電話  
Phone  
手机 / 휴대폰

避難所  
Shelter  
避难所 / 대피소

### ④ 属性 / Det

さっき  
Just now  
刚才 / 방금

少し  
A little  
少量 / 조금



困った時は助け合おう。

# もしもリスト

もしものときはこのページを  
おとなのひとにみせてね。

もしものとき あつまるばしょ

## 詳しい情報（おとなのひとがかいてね）

なまえ  
名前

住所

学校

誕生日 年 月 日

かかりつけ病院

アレルギー等

なまえ  
名前

住所

学校

誕生日 年 月 日

かかりつけ病院

アレルギー等

名前 続柄

電話番号

職場・学校

名前 続柄

電話番号

職場・学校

名前 続柄

電話番号

職場・学校

名前 続柄

電話番号

職場・学校

名前 続柄

電話番号

職場・学校

名前 続柄

電話番号

職場・学校

# ココンボウサイ

2026年1月31日 発行

著者 亀田朋樹

企画 株式会社 Earth High School  
<https://earthhighschool.jp/>

監修 島野辰也

協力 中川生馬

---

© 2026 Kameda Tomoki

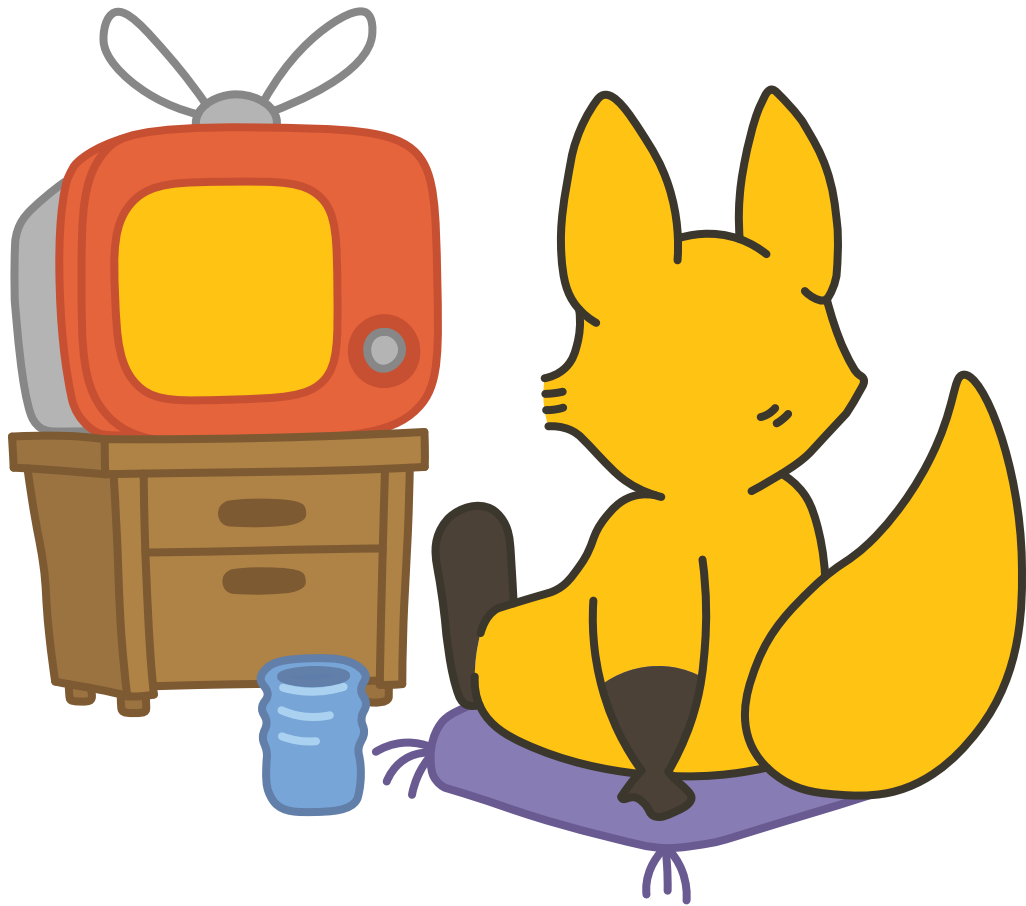
# コロンボウサイ



作：かめだ ともき



こちら、キツネくん。



あるひキツネくんがおうちにいると…

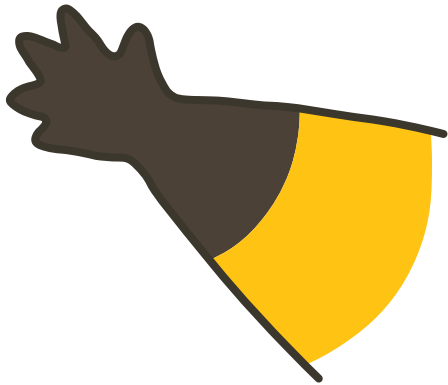


ドンッ！！なんだ！？



じしん  
地震だ！ゆれてる！こわいよ～！

# からだのどこをまもる？



て



あたま



おしり

ヒント

からだのなかで  
いちばんだいじな  
ところはどこ？

あたま！

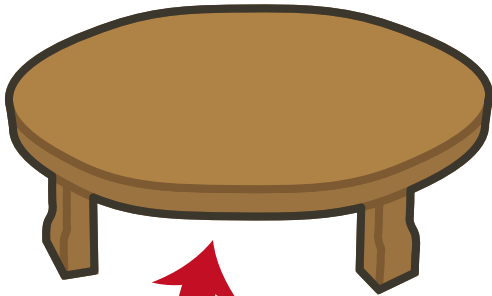


りょうてであたまをまもろう。

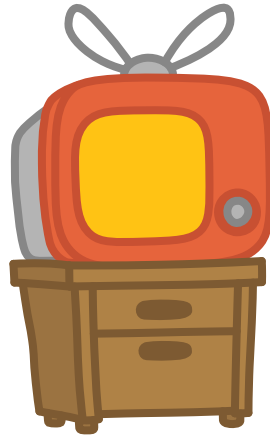


あたまのうえから ものがおちてきそう！にげなきゃ！

# どこににげる？



つくえのした



テレビのまえ



ふとんのなか

ヒント

おちてくるものから  
あたまをまもれる  
ばしょはどこ？



こんなときは…ココン！<sup>へんげ</sup>「変化」ッ！

つくえ!



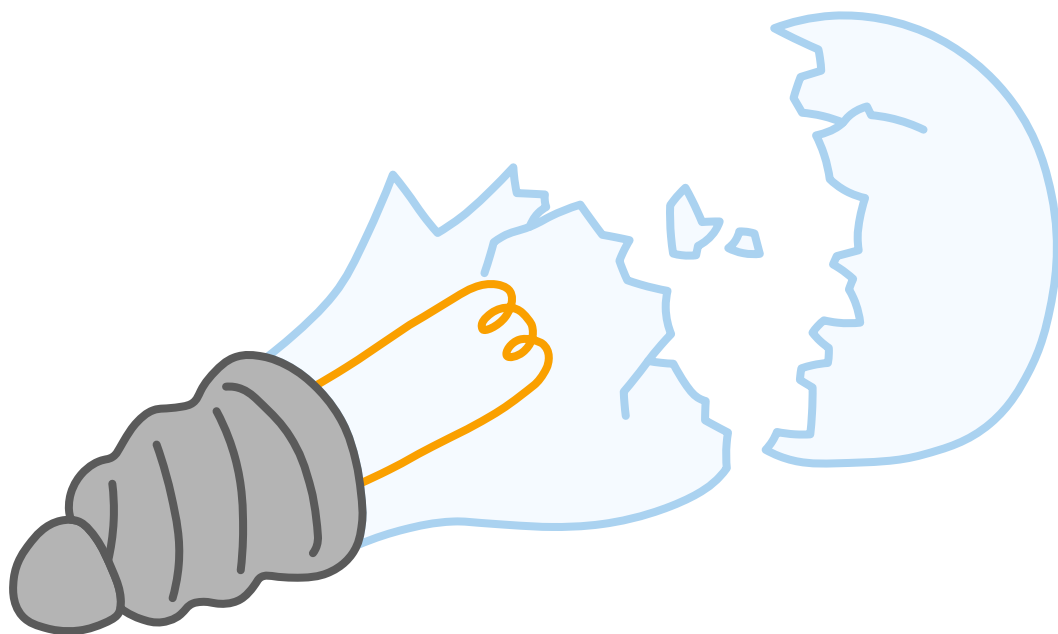
つくえのしたにゆれがとまるまでかくれていよう。



あぶなかった～。ゆれはとまったみたい。



いたた！あしになにかがささった！



トゲトゲしたものがおちてる。  
さっきのゆれでおちてきたんだ！

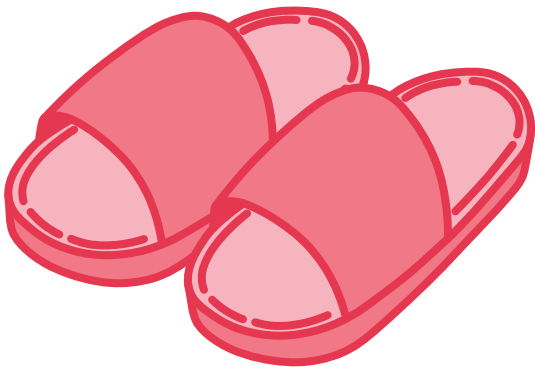
# あしをまもるには？



くつしたをはく



てぶくろをつける



スリッパをはく

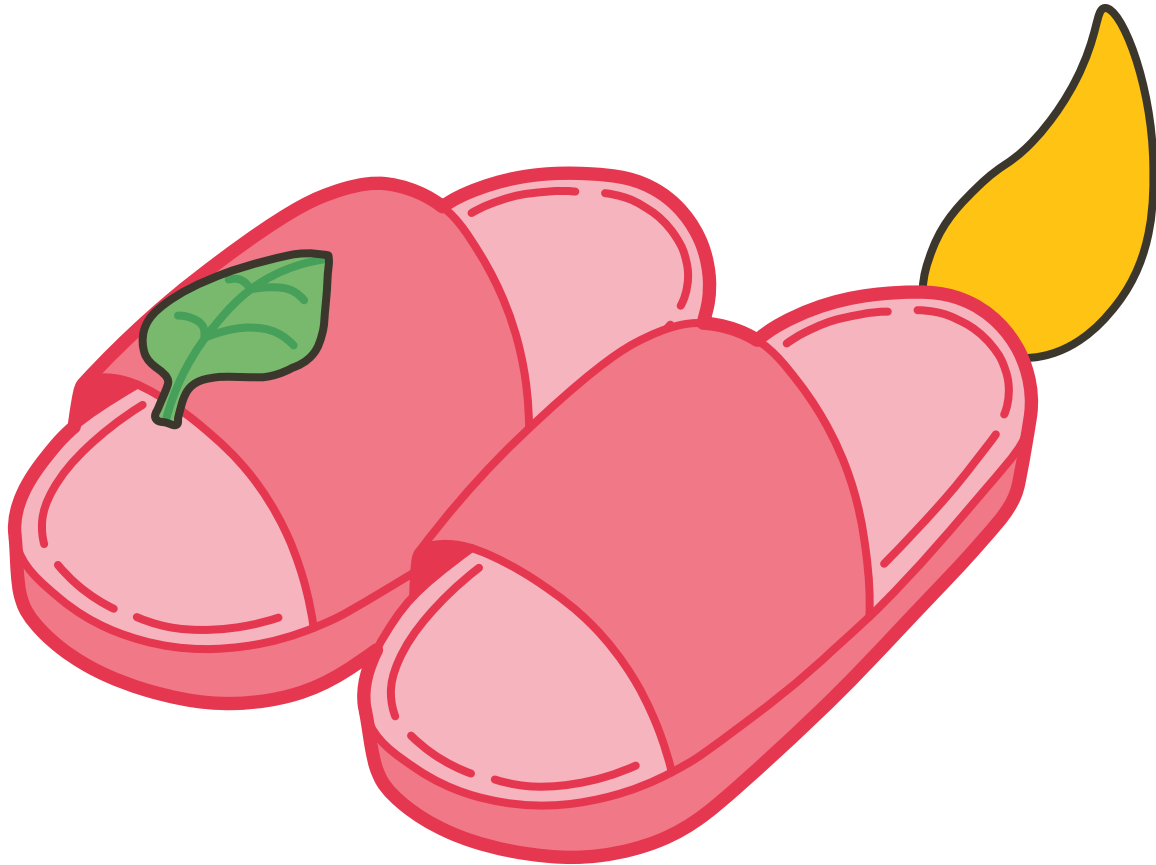
ヒント

あしをまもる  
「はくもの」は  
どれかな？



こんなときは…ココン！<sup>へんげ</sup>「変化」ッ！

スリッパ！

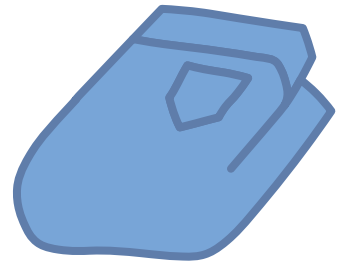
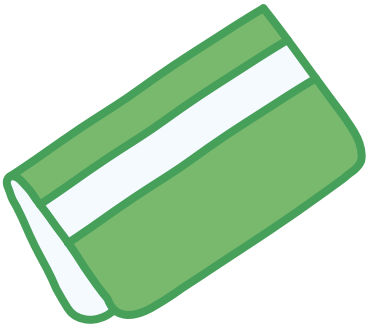


スリッパやくつをはいてあしをまもろう。



ひとりだとこわいな。あんぜん安全なところへひなんしよう。

# なにをもっていく？



かんがえてみよう。

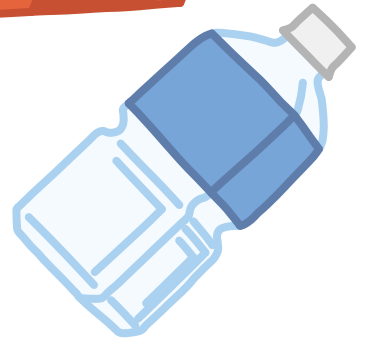
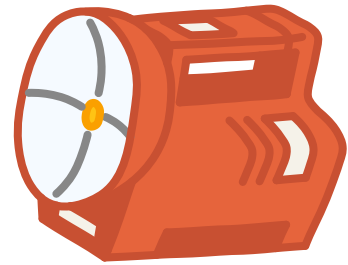
おもちゃ？

おかね？

おみず？

おにんぎょう？

おようふく？



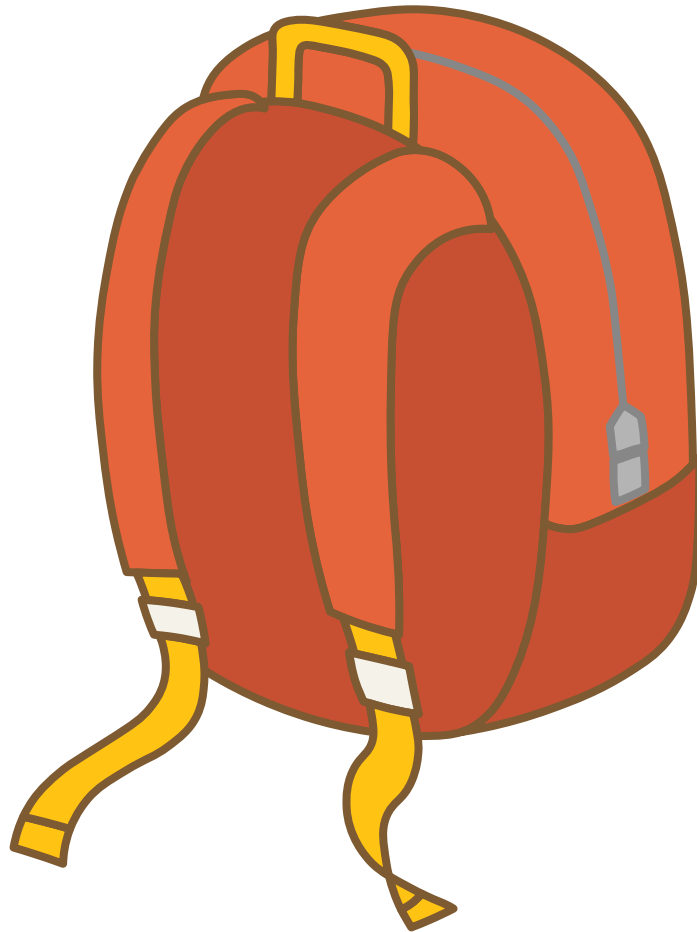


あれも、これも、もっていきたい！



もちあげられなくなっちゃった…。

あらかじめ  
じゅんびしておこう



きみのおうちでも じゅんびしているかな？



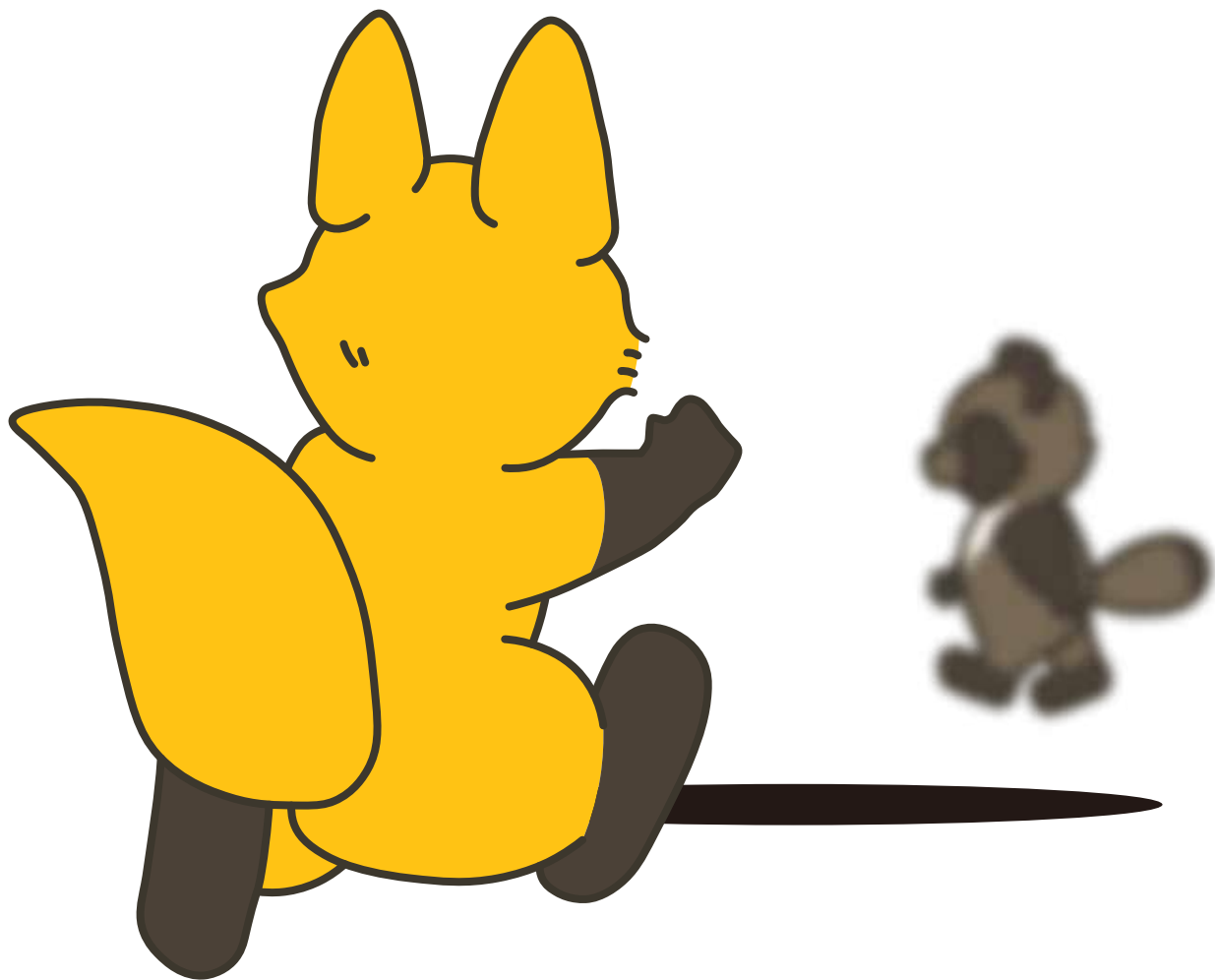
しってるひとのところへいこう。



あたまのうえから なにかおちてこないか  
きをつけてあるこう。つまづかないように そろりそろり。



あ！ともだちのタヌキくんをはっけん。



お~い! タヌキく~ん!



あっ！あなにおちちゃった！



いたた。きゅうにはしりだすんじゃない。  
だれか たすけをよばなきゃ。

# たすけをよぶには？



しーっとだまる



おおごえでさけぶ



ふえをふく

ヒント

おおきなおとをだそう。

こえをだすと

つかれちゃうよ。



こんなときは…ココン!<sup>へんげ</sup>「変化」ツ!

ふえをふこう！



ピーッ！！だれかきづいて！

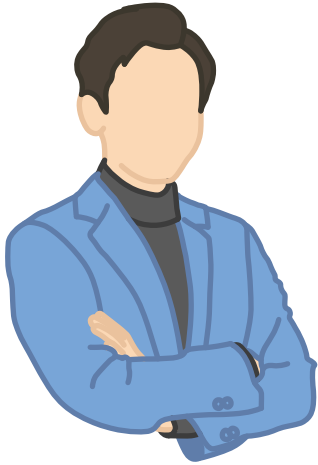


あ！タヌキくん！きがついてくれたんだ！

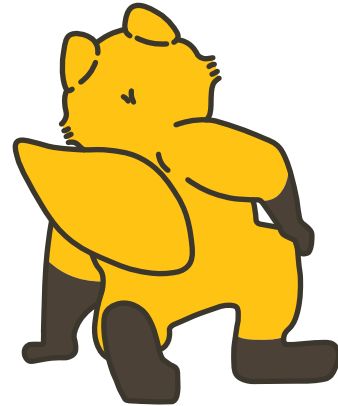


こまった…のぼれない。どうしよう…。

# こまったときどうする？



おとなをよぶ



ひとりでがんばる



あきらめる

ヒント

こどもだけで  
うごくのは  
きけんだよ。

# おとなをよぶ



キツネくん！おとなのひとをつれてきたよ！



こまったことがあればすぐにおとなをよぼう。



助かった～。ありがとう！



ひとりじゃない。みんなで、そなえよう。  
まもって、しらせて、そなえて、いっしょに。

こんどはじしんがくるまえに。  
おうちのひととじゅんびしておこう。



# もしもリスト

もしものときはこのページを  
おとなのひとにみせてね。

もしものとき あつまるばしょ

## 詳しい情報（おとなのひとがかいてね）

なまえ

名前

住所

学校

誕生日

年

月

日

かかりつけ病院

アレルギー等

名前

続柄

電話番号

職場・学校

名前

続柄

電話番号

職場・学校

名前

続柄

電話番号

職場・学校

名前

続柄

電話番号

職場・学校

## 持ち出し荷物リスト（定期的の中身を見直しましょう）

### 最優先

- 水 4.5L（一人の3日分）
- 食べ物（ゼリー飲料/  
栄養バー/レトルト等）
- ライト+予備電池
- 簡易トイレ

### 身体を守る

- 衣類（一人1セット）
- 防災ヘルメット
- レインウェア

### 軍手

- マスク
- 笛/ホイッスル
- 防犯ブザー

### 衛生/寒さ対策

- ウェットティッシュ
- ティッシュ
- 消毒(アルコール等)
- 石鹸・ハンドソープ
- 洗面用具

### 歯ブラシ/歯磨き粉

- 生理用品
- ゴミ袋（大小）
- ジップ袋（密閉袋）
- フェイスタオル  
（一人2~3枚）

### アルミブランケット

- 使い捨てカイロ
- 連絡/情報/電源
- モバイルバッテリー

### ラジオ（手回し充電式）

- イヤホン
- 現金（小銭多め）
- 保険証のコピー
- 貴重品（通帳等）

### 応急手当（最小限）

- 絆創膏
- ガーゼ/包帯
- 常備薬
- 使い捨て手袋

### こども用品

- 粉ミルク/離乳食
- 使い捨てカトラリー
- おむつ/おしりふき
- 着替え
- だっこ紐
- 名前カード（迷子対策）
- ネックライト
- 小さなおもちゃ  
（落ち着く用1つだけ）

# ココンボウサイ マイルド

2026年1月31日 発行

著者 亀田朋樹

企画 株式会社 Earth High School  
<https://earthhighschool.jp/>

監修 島野辰也

協力 中川生馬  
能登のみなさん

---

© 2026 Kameda Tomoki



**EARTH  
HIGH  
SCHOOL**

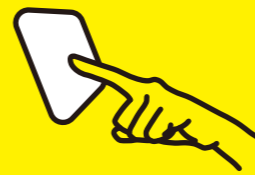


# 指さしコミュニケーションシート

## Pointing Communication Sheet

JP / EN / 中文 / 한국어 A3 両面

伝えたいことを表すカードを、ゆっくり指さしてください。  
Slowly point to the cards that show what you want to say.  
请慢慢指向能表达您想说内容的卡片。  
전하고 싶은 내용을 나타내는 카드를 천천히 가리켜 주세요.



memo

はい  
Yes

是 / 네

いいえ  
No

不 / 아니요

わからない  
I don't know

我不知道 / 잘 모르겠어요

やめて  
Stop

停止 / 멈춰주세요

待って  
Wait

等一下 / 잠깐만요

### よく使うフレーズ / Common phrases / 常用短语 / 자주 쓰는 문구

# SOS

助けて！  
Help!  
救命！  
도와주세요!



危険！  
Danger!  
危険！  
위험해요!



火事  
Fire!  
着火了！  
불이야!



ガス臭い  
I smell gas.  
我闻到煤气味。  
가스 냄새가 나요.

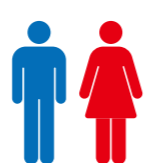
逃げよう  
Evacuate.

撤离。  
대피해요.



水をください  
Water, please.

请给我水。  
물 좀 주세요.



トイレはどこ？  
Where is the toilet?

厕所在哪里？  
화장실이 어디예요?

迷子です  
I'm lost.

我迷路了。  
길을 잃었어요.

ひとりです  
I'm alone.

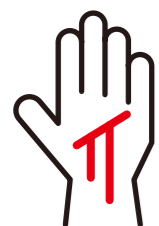
我一个人。  
혼자예요.

子どもがいます  
I have a child.

我有孩子。  
아이가 있어요.

家族を探しています  
Looking for family.

我在找家人。  
가족을 찾고 있어요.



けがをしました  
I'm injured.

我受伤了。  
다쳤어요.



救急車を呼んでください  
Call an ambulance.

请叫救护车。  
구급차 불러주세요.

息が苦しいです  
I can't breathe.

我呼吸困难。  
숨쉬기 힘들어요.

通訳が必要です  
I need an interpreter.

我需要翻译。  
통역이 필요해요.

日本語が苦手です  
I don't speak Japanese well.

我日语不好。  
일본어를 잘 못해요.

### 応急処置問診 / First aid interview / 急救问诊 / 응급 처치 문진

症状はどれ？ / Which symptom?

什么症状？ / 어떤 증상이예요?

痛い  
It hurts

疼  
아파요

しびれる  
Numb

麻  
저려요

出血  
Bleeding

出血  
피가 나요

力が入らない  
No strength

没力气  
힘이 없어요

違和感がある  
Feels strange

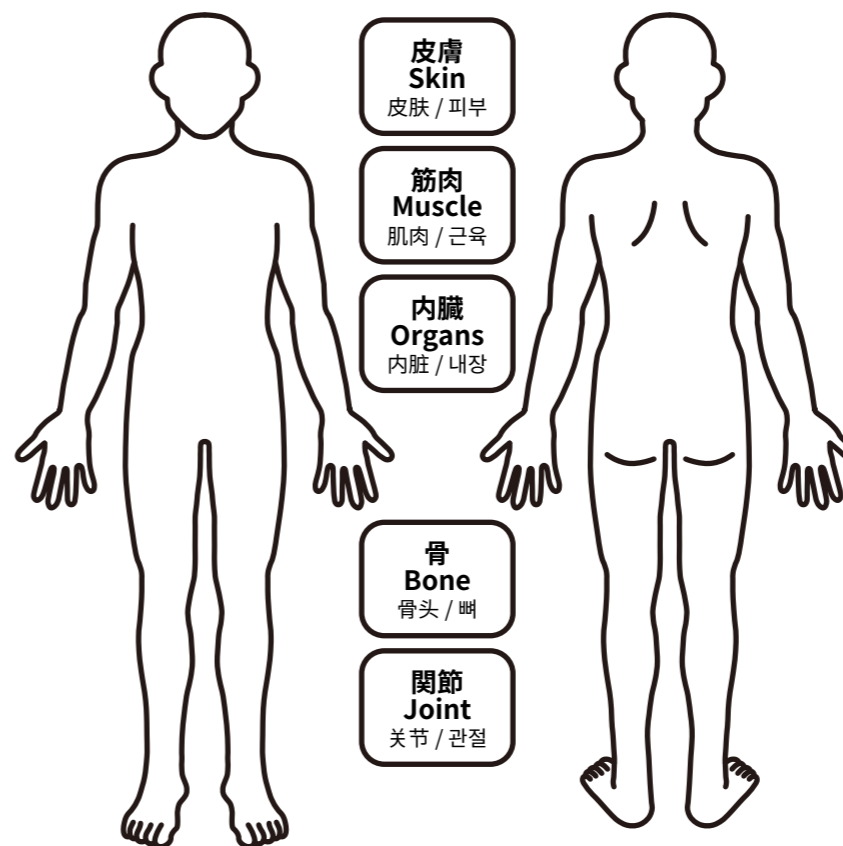
感觉不对  
이상해요

ここにはない  
Not listed

不在列表里  
여기에 없어요

どこ？ / Where?

哪里？ / 어디?



皮膚  
Skin  
皮肤 / 피부

筋肉  
Muscle  
肌肉 / 근육

内臓  
Organs  
内脏 / 내장

骨  
Bone  
骨头 / 뼈

関節  
Joint  
关节 / 관절

具体症状 / Specific symptoms

具体症状 / 구체적인 증상



咳がでる  
Cough  
咳嗽  
기침



発熱  
Fever  
发烧  
열



腹痛  
Stomachache  
腹痛  
복통



頭痛  
Headache  
头痛  
두통



下痢  
Diarrhea  
腹泻  
설사



嘔吐  
Vomiting  
呕吐  
구토



鼻水  
Runny nose  
流鼻涕  
콧물



喘息  
Asthma  
哮喘  
천식



めまい  
Dizziness  
头晕  
어지럼



けいれん  
Seizure  
抽搐  
경련



動悸  
Palpitations  
心悸  
두근거림



胸が苦しい  
Chest tightness  
胸闷  
가슴 답답함



発疹  
Rash  
皮疹  
발진



アレルギー  
Allergy  
过敏  
알레르기



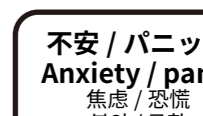
脱水  
Dehydration  
脱水  
탈수



熱中症  
Heatstroke  
中暑  
열사병



低体温  
Hypothermia  
低体温  
저체온증



不安 / パニック  
Anxiety / panic  
焦虑 / 恐慌  
불안 / 공황



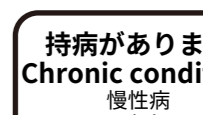
薬が必要  
Need medicine  
需要药  
약 필요



薬を飲んでいる  
Taking medication  
正在服药  
약 복용 중



妊娠中  
Pregnant  
怀孕  
임신



持病があります  
Chronic condition  
慢性病  
지병

どのくらい？ / How severe?

有多严重？ / 얼마나 심해요?

重い  
Severe  
严重  
심함



軽い  
Mild  
轻微  
약함


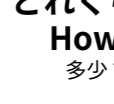
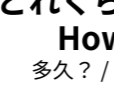
はい Yes 是 / 네	いいえ No 不 / 아니요	わからない I don't know 我不知道 / 잘 모르겠어요	もう一度 Again 再说一遍 / 다시 한 번	ゆっくり Slowly 慢一点 / 천천히
--------------------	----------------------	-----------------------------------------	--------------------------------	-----------------------------

① だれ, どれ / Who, Which / 谁, 哪个 / 누구, 어느 것

 わたし I 我 / 나	 あなた You 你 / 당신	 わたしたち We 我们 / 우리	 この人 This one 这个人 / 이 사람	 あの人 That one 那个人 / 저 사람	 これ This 这个 / 이것
--------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------


② 用件 / Intent / 意图 / 의도

 どこ Where 哪里 / 어디	 なに What 什么 / 뭐	 いつ When 什么时候 / 언제	 だれ Who 谁 / 누구	 どうやって How 怎么 / 어떻게	 ありますか? Do you have 有吗 / 있어요?
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------





 いくつ? (数) How many? 多少个? / 몇 개?	 どれくらい? (量) How much? 多少? / 얼마나?	 どれくらい? (時間) How long? 多久? / 얼마나 걸려요?
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

 ください Please give 请给我 / 주세요	 必要 Need 需要 / 필요해요	 行きたい Want to go 想去 / 가고 싶어요	 来て Come 过来 / 와 주세요	 呼んで Call 请叫 / 불러 주세요
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

 探している Looking for 找 / 찾고 있어요	 教えて Tell me 告诉我 / 알려 주세요	 見せて Show me 给我看 / 보여 주세요	 書いて Write 写 / 써 주세요	 手伝って Help me 帮帮我 / 도와주세요
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

 貸して Lend me 借我 / 빌려 주세요	 運んで Carry 帮我搬 / 옮겨 주세요	 確認して Check it 确认一下 / 확인	 できない Can't 不能 / 못 해요	 いらない Don't need 不需要 / 필요 없어요
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

③ 目的語 / Objects / 目标 / 목적어

 水 Water 水 / 물	 食べ物 Food 食物 / 음식	 毛布 Blanket 毛毯 / 담요	 マット Mat 垫子 / 매트	 着替え Clothes 衣服 / 옷	 靴 Shoes 鞋 / 신발	 スリッパ Slippers 拖鞋 / 슬리퍼	 タオル Towel 毛巾 / 수건
 ティッシュ Tissues 纸巾 / 휴지	 トイレットペーパー Toilet paper 卫生纸 / 화장지	 ウェットティッシュ Wet wipes 湿巾 / 물티슈	 マスク Mask 口罩 / 마스크	 消毒 Sanitizer 消毒 / 소독제	 せっけん Soap 肥皂 / 비누	 歯ブラシ Toothbrush 牙刷 / 칫솔	
 薬 Medicine 药 / 약	 生理用品 Sanitary pad 卫生巾 / 생리대	 おむつ Diaper 尿布 / 기저귀	 ゴミ Trash 垃圾 / 쓰레기	 ゴミ袋 Trash bag 垃圾袋 / 쓰레기봉투	 物資 (配給) Supplies 物资 / 물자	 情報 Information 信息 / 정보	 連絡 Contact 联系 / 연락
 携帯電話 Phone 手机 / 휴대폰	 Wi-Fi Wi-Fi 无线网 / 와이파이	 電源 Power outlet 插座 / 콘센트	 充電 Charging 充电 / 충전	 家族 Family 家人 / 가족	 洗濯 Laundry 洗衣 / 세탁	 シャワー Shower 淋浴 / 샤워	 トイレ Toilet 厕所 / 화장실
 避難所 Shelter 避难所 / 대피소	 受付 Registration 登记处 / 접수처	 救護所 First aid station 救护点 / 응급처치	 相談所 Infomation desk 咨询 / 안내	 寝る場所 Sleeping area 睡觉的地方 / 취침 공간	 出口 Exit 出口 / 출구	 入口 Entrance 入口 / 입구	

④ 属性 / Details / 细节 / 세부

さっき Just now 刚才 / 방금	今 Now 现在 / 지금	あとで Later 以后 / 나중에	〇日前 ___ days ago ___天前 / ___일 전	昨日 Yesterday 昨天 / 어제	今日 Today 今天 / 오늘	明日 Tomorrow 明天 / 내일	〇日後 in ___ days ___天后 / ___일 후						
少し A little 少量 / 조금	沢山 A lot 很多 / 많이	半分 Half 一半 / 절반	全部 All 全部 / 전부	子ども Child 孩子 / 아이	おとな Adult 成人 / 어른	老人 Elderly 老人 / 노인	ここ Here 这里 / 여기	あそこ There 那里 / 저기					
		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	AM	PM